

きべりはむし

第49巻 第1号

2026



「きべりはむし」編集委員会

委員長 池田大
編集委員 阪上洸多・末宗安之・中峰空・森正人・安岡拓郎

兵庫県で報告の少ないハマキガ科の蛾類について

高橋輝男¹⁾・坪田瑛²⁾

筆者らはこれまでに兵庫県で報告の少ないハマキガ亜科 30 種, ヒメハマキガ亜科 50 種ハマキガ科合計 80 種を確認しているのここに報告する. 記載順序は大図鑑 (井上ら, 1982) に則った. なお大図鑑未掲載種についてはその亜科の下に入れた.

本報告中, 採集場所が兵庫県美方郡香美町, 兵庫県養父市丹戸, 兵庫県朝来市生野町および兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山) では全てライトトラップで, それ以外の場所については夜間の見回りで採集した. 本報告の蛾はほとんどが高橋の採集によるものであり, 坪田採集の蛾については採集記録に坪田採集と記載した. ハマキガ科については調べても名前の分らない蛾が多く, 筆者らも本報告に記載した以外の不明蛾を多数確認している.

本報告の中で, 既に記録のある種については, 最近の文献を除き, それらの原著論文を参照せずに兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) を参考にした. 原著論文の著者には申し訳なく, ここにお詫びを申し上げる次第である.

1. カタカケハマキ *Archips capsigerana*

日本での分布は北海道, 本州, 四国である. ♂は顕著な橙黄色の costal fold を有する. 幼虫はユズリハ科, バラ科, ツツジ科, クスノキ科, カエデ科, マツ科, ブナ科の植物を喰う.

本県では神戸市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山), 25. V . 2016, 1ex., 12. VIII . 2016, 1ex. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 1. VI . 2016, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 9. VI . 2020, 1ex., 23. VI . 2020, 1ex.

2. タテスジハマキ *Archips pulchra*

日本での本種の分布は北海道, 本州, 四国および九州である. 幼虫はトドマツ, モミおよびイチイを喰う.

本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 17. VI . 2023. 1ex.

3. カラマツイトヒキハマキ *Ptycholomoides aeriferana*

本種の分布は北海道から本州中部山地とされており, 北方系のガである. 別名はキスジクロハマキと呼ばれ, 幼虫はカラマツの重要害虫の 1 種である.

本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 21. VI . 2021, 5exs., 27. VI . 2021, 6exs., 19. VII . 2021, 1ex., 30. VII . 2021, 1ex., 3. VIII . 2021, 1ex., 17. VI . 2022, 1ex., 1. VII . 2022, 4exs., 7. VII . 2022, 4exs., 兵庫県養父市丹戸, 24. VI . 2023. 1ex. 22. VII . 2023. 1ex.

4. ツヤスジハマキ *Homonopsis illotana*

日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 屋久島に分布する. ♂♀ともに前翅に銀色の小斑点を散りばめる.

幼虫はバラ科, カキノキ科, ブナ科, ヤナギ科, カエデ科, タデ科, クロウメモドキ科, スイカズラ科, クスノキ科, グミ科, カバノキ科など多種の植物を喰う.

本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町亀坪, 10. VI . 2015, 1ex. 兵庫県神崎郡福崎町田口, 10. VI . 2015, 1ex. 兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山), 25. V . 2016, 1ex., 27. V . 2017, 1ex.

5. フタモンコハマキ *Neocalyptis lirata*

前翅前縁に二つの茶褐色紋が現れる. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 成虫は 5 月から 10 月にかけて出現し, この時期にライトトラップを行うと必ず飛来する. 幼虫は枯葉を喰う.

本県では神戸市, 川西市, 神河町での報告 (宇野ら, 2024) がある.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 25. IX . 2018, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 28. IX . 2019, 1ex., 29. IX . 2020, 1ex., 4. X . 2020, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 21. IX . 2020. 2exs., 25. IX . 2020, 1ex., 19. V . 2021, 1ex., 21. V . 2022, 1ex., 18. VI . 2023, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 5. VI . 2021, 2exs., 9. VI . 2021, 1ex., 14. VI . 2021, 1ex., 17. VI . 2021, 1ex., 3. X . 2021, 1ex., 28. V . 2022, 1ex., 15. IX . 2024, 2exs.

¹⁾ Teruo TAKAHASHI 兵庫県神崎郡福崎町; ²⁾ Teru TSUBOTA 兵庫県神崎郡市川町

6. クシヒゲムラサキハマキ *Terricula violetana*

日本では本州, 四国, 九州に分布する. ツヤスジハマキ *Homonopsis illotana* やバラギンオビヒメハマキ *Hedya walsinghami* に似ているが, 銀色の小斑点を散在しないことで見分けることが出来る. 幼虫はソヨゴ, アオミズ, イタドリ, フタリシズカなどを喰う.

本県では神戸市, 香美町 (宇野ら, 2024), 宍粟市 (高橋 2025a) での報告がある.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 14. VI. 2021, 1ex., 15. IX. 2021, 1ex.

7. コギンボンハマキ *Drachmobola periastra*

日本では本州, 四国に分布する. 幼虫の食草は不明のようだ.

本県では相生市での報告がある (高橋, 2023).

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 8. VIII. 2018, 1ex., 19. IV. 2022, 1ex.

8. ホソバハイイロハマキ *Cnephasia stephensiana stolidana*

日本における本種の分布は北海道, 本州, 四国および九州である. 幼虫はリンゴ, キイチゴ, カキ, ヨモギ類, アカザ, テンサイ, ギシギシ, ハナウド, イチゴ, ハツカ, クローバ, エゾノギシギシ, ヒメスイバ, イタドリ, ヨモギ, ヒメジオン, ゴマナ, ナンブアザミ, アマニユウ, オオハナウドなど多くの植物を喰う.

本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 20. V. 2016, 1ex.

9. ミヤマミダレモンハマキ *Acleris submaccana*

日本では本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 極端な個体変異を示す. 幼虫はシラカンバ, ミヤマハンノキを喰う. 本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 3. XI. 2019, 3exs., 11. XI. 2019, 1ex.

10. クロコハマキ *Acleris tunicatana*

日本固有種であり, 本州, 四国, 九州から報告されているが, 少ない種であるようだ. 幼虫の食草は不明らしい. 本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 16. III. 2022, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 10. IV. 2022, 1ex.

11. ツマモンエグリハマキ *Acleris paradiseana*

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 幼虫はリンゴ, ナナカマド, カエデ類, ズミなどを喰う. 別名をキアオハマキという.

本県では香美町での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 8. X. 2021, 1ex.

12. キボシエグリハマキ *Acleris caerulescens*

日本での分布は北海道, 本州 (中部山地) となっている. 別名はマエキモンハマキである. 幼虫はサワグルミを喰う.

本県では宍粟市での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 13. X. 2020, 1ex.

13. ホノホハマキ *Acleris aestuosa*

日本固有種であり, 本州, 四国に分布するが少ない種である. 幼虫はブナを喰う.

本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 26. IX. 2021, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 22. VII. 2023, 1ex.

14. コトサカハマキ *Acleris delicatana*

日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 別名はカシワフタモンハマキである. 幼虫はシデ, カシワを喰う. 本県では香美町での報告がある (宇野ら, 2024).

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 28. IX. 2019, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 26. IX. 2021, 1ex., 13. X. 2021, 1ex.

15. マエキハマキ *Acleris pulchella*

日本固有種であり本州, 四国, 九州, 対馬から記録されている. 幼虫の食草は不明のようだ.

本県初記録と思われる.

【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野, 1. XII. 2019, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 13. X. 2021, 1ex.

16. トサカハマキ *Acleris cristana*

日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 本種は極端な個体変異を示す. 前翅の中央部に目立つ隆起した鱗片塊を有する. 幼虫はバラ, サンザシ, スモモなどを喰う.

本県では神戸市, 宍粟市 (宇野ら, 2024), 相生市 (高橋, 2023) での報告がある.

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 8. III. 2016, 1ex., 28. II. 2019, 1ex., 17. III. 2024, 1ex.

17. ヨコヒダハマキ *Acleris yasudai*

日本固有種であり, 本州と四国に分布する. 幼虫はサラサドウダンを喰う.

本県では神戸市と相生市の報告 (宇野ら, 2024; 高橋, 2023) がある.

【採集記録】兵庫県姫路市山田町南山田, 21. II. 2019, 1ex., 10. III. 2019, 1ex., 25. III. 2020, 1ex.

18. マエモンシロハマキ *Acleris lacordairana*
日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 個体数は多くないらしい (井上ら, 1982). 幼虫はウリハダカエデ, カラスウリを喰う.
本県では宍粟市と養父市での報告がある (高橋, 2025b).
【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 19. X. 2019. 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 14. VII. 2021, 1ex., 26. IX. 2021, 1ex., 30. IX. 2021, 1ex., 13. 10. 2021, 1ex.
19. ナカジロハマキ *Acleris japonica*
日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 幼虫はケヤキを喰う.
本県では姫路市 (宇野ら, 2024), 宍粟市, 佐用町 (高橋, 2025a) での報告がある.
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 27. V. 2018, 1ex., 1. VI. 2018, 1ex., 20. VI. 2018, 1ex., 6. VI. 2019, 1ex., 14. III. 2020, 1ex., 7. IV. 2023, 1ex. 兵庫県朝来市生野町上生野, 28. XI. 2019, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 15. VI. 2020, 1ex. 2. VI. 2021, 1ex., 23. IV. 2022, 1ex., 11. IV. 2023, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 18. X. 2022, 1ex., 18. VI. 2023, 1ex., 24. VI. 2023, 1ex.
20. ニレハマキ *Acleris ulmicola*
日本での分布は北海道, 本州, 四国である. 幼虫はハルニレを喰う.
本県では南あわじ市での報告がある (宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 8. VIII. 2021, 1ex.
21. ハイミダレモンハマキ *Acleris hispidana*
日本では北海道, 本州に分布する. 幼虫の食草は日本では不明であるが海外の報告ではミズナラを喰うらしい (井上ら, 1982).
本県では相生市での報告がある (高橋, 2023).
【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 3. XI. 2019, 2exs. 兵庫県朝来市生野町上生野, 8. XII. 2019, 1ex. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 16. III. 2022, 1ex., 15. IV. 2020, 1ex.
22. ギンスジカバハマキ *Acleris askoldana*
日本では北海道, 本州, 四国, 九州に分布する. 幼虫はツクバネウツギなどのウツギ類を喰う.
本県では神戸市と神河町の報告がある (宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 6. VIII. 2023, 1ex.
23. モトキハマキ *Acleris fuscotogata*
日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 暖地および平地に多い. 幼虫はコナラ, アカソ, ガマズミを喰う.
本県では神戸市と淡路市の報告がある (宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 29. IX. 2020, 1ex.
24. チャモンギンハマキ *Acleris arcuata*
日本固有種で北海道, 本州, 四国に分布する. 幼虫はウチワカエデを喰う.
本県では香美町での報告がある (宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 11. IX. 2021, 1ex.
25. ツマグロギンハマキ *Acleris blanda*
日本固有種で北海道, 本州, 四国に分布する. 幼虫はヤナギを喰う.
本県では南あわじ市での報告がある (宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 1. VII. 2021, 1ex., 1. VII. 2022, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 24. VI. 2023, 1ex., 22. VII. 2023, 1ex., 29. VI. 2024, 1ex.
26. ホソマダラハイロハマキ *Acleris indignana*
本種は日本では北海道, 本州 (中部山地) で採れているが個体数は少ないようだ (井上ら, 1982). 幼虫の食草は不明である.
本県初記録と思われる.
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 1. VII. 2022, 1ex.
27. トラフハマキ *Acleris tigricolor*
日本では北海道, 本州, 四国に分布する. 個体変異が非常に激しい. 幼虫はアズキナシ, カバノキを喰う.
本県では神戸市での報告がある (宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 24. VI. 2023, 1ex.
28. アミメホソハマキ *Phalonidia chlorolitha*
日本では北海道から本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 幼虫の食草は不明である.
本種は普通種であるが兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) でも記載がなく, 本県初記録と思われる.
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 9. IX. 2023, 1ex.
29. ナカハスジベニホソハマキ *Cochylidia subroseana*
日本では本州, 九州, 四国, 対馬に分布する. 幼虫はアキノキリンソウを喰う.
本種は平地, 山地に普通であるが, 兵庫県産蛾類分布記録データベース (宇野ら, 2024) には記載がなく, 本県初記録と思われる.
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 9. IX. 2023, 1ex.
30. サザナミタテゲハマキ *Homalernis fluctuosa*
日本で初めてのタテゲハマキガ族として, 2024年に

新種記載された (Suzuki et al., 2024). 情報が乏しいがで、ネットを検索すると愛知県, 高知県, 岡山県, 石川県などで確認されており, 広く本州, 四国に分布するようだ。本県では初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 27. V. 2018, 1ex.

31. ヘリグロヒメハマキ *Orientophiaris altissima*

本種は関東以西の太平洋岸に沿って分布するガであり, 産地に限られた個体数の少ない種と推定されている。ネットを検索すると兵庫県神戸市, 明石市, 大阪府生駒市, 四條畷市, 愛知県豊川市などでの画像が見受けられる。

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山), 17. IV. 2016, 1ex., 7. V. 2016, 1ex.

32. ハスオビヒメハマキ *Sorolopha sphaerocopa*

日本における分布は本州, 四国, 対馬, 屋久島であり, 南方系のガである。成虫の出現時期は7~9月 (井上ら 1982) となっているが, 筆者が採集した2例は3~4月である。

本県では宝塚市での報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 9. IV. 2016, 1ex., 13. III. 2020, 1ex.

33. オオシロアシヒメハマキ *Phaenocarpa fernaldana*

本州, 四国, 九州, 対馬, 屋久島, 奄美大島, 沖縄島, 久米島, 西表島に分布する。食草は不明である。

本県では洲本市と南あわじ市の報告がある (宇野ら, 2024)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 17. IX. 2019, 1ex.

34. シロテンシロアシヒメハマキ *Phaenocarpa obratzovi*

本種は日本固有種で本州, 四国, 九州北部, 対馬に分布する。幼虫はクヌギやアブラチャンを喰う。

本県では宝塚市, 姫路市 (宇野ら, 2024), 相生市, 上郡町 (高橋, 2025a) での報告がある。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 6. VI. 2019, 1ex.
兵庫県朝来市生野町黒川, 23. VII. 2020, 1ex., 10. VII. 2021, 1ex., 4. VI. 2022, 1ex., 10. VI. 2022, 1ex.

35. コブシヒメハマキ *Neostatherotis nipponica*

本州に分布する。本種の旧名はマユミヒメハマキであるが幼虫はマユミに付かないので改称された。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 2. VI. 2021, 1ex., 10. VII. 2021, 1ex., 10. VII. 2022, 1ex.

36. コシロモンヒメハマキ *Statherotmantis shicotana*

前縁の白色紋に橙黄色を加味していないことと白紋内前縁でヒメハマキ模様が出ることで他種と区別出来る。北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 色丹島などの千島列島に分布する。食草は不明である。

本県では神戸市での報告 (宇野ら, 2024) がある。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野, 14. V. 2020, 1ex., 2. VI. 2020, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 12. VII. 2020, 1ex., 14. V. 2020, 1ex., 6. V. 2021, 1ex., 11. V. 2021, 1ex., 2. VI. 2021, 1ex., 4. VI. 2022, 1ex.

37. キモンヒメハマキ *Statherotmantis pictana*

前縁紋が美しい橙黄色を呈する。北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 千島列島に分布する。食草は不明である。

本県では相生市と姫路市の報告 (宇野ら, 2024) がある。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野, 21. V. 2020, 1ex., 2. VI. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 8. VIII. 2021, 1ex., 15. VIII. 2021, 1ex., 20. VIII. 2021, 1ex.

38. オカトラノオヒメハマキ *Aterpia flavipunctana*

旧名はキマダラムラサキヒメハマキである。本州, 対馬, ウスリーに分布する。幼虫はサクラソウ科オカトラノオを喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山), 9. VI. 2013, 1ex. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 30. V. 2016, 1ex., 7. VI. 2016, 1ex., 2. VI. 2018, 1ex., 26. VI. 2018, 1ex., 5. X. 2018, 1ex., 2. VI. 2019, 1ex., 25. VI. 2019, 1ex., 28. VI. 2022, 1ex.

39. カタシロムラサキヒメハマキ *Hedya iophaea*

本州, 九州, 四国, 伊豆諸島, 屋久島, 奄美大島に分布する。幼虫はヒサカキを喰う。

本県では南あわじ市 (宇野ら, 2024) と加西市 (柴田, 2025) の報告がある。

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山), 12. VIII. 2016, 1ex. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 18. VI. 2018, 1ex., 10. IX. 2018, 1ex., 16. VI. 2019, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 25. VIII. 2022, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 29. VI. 2024, 1ex.

40. オオサザナミヒメハマキ *Hedya inornata*

本種の日本における分布は北海道, 本州, 対馬である。幼虫はクヌギ, コナラ, ミズナラを喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原 (日光寺山), 8. VI. 2016, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 27. VI. 2022, 1ex., 10. VII. 2022, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 7. VII. 2022, 1ex.

41. オオナミスジキヒメハマキ *Pseudohedya retracta*
日本では北海道, 本州に分布する. 幼虫は大ハシバミ, オオツノハシバミ, サワバシ, アカシデ, アサダを喰う. 成虫は7~9月に発生するとなっているが筆者は全て6月に採集している.
本県初記録と思われる.
【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原(日光寺山), 18. VI. 2016, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 27. VI. 2022, 2exs.
42. クロテンツマキヒメハマキ *Metendothenia atropunctana*
本州, 四国, 旧北区に分布する. ツマジロクロヒメハマキ *Endothenia banausopsis* に似るが, 本種は中室端上に黒点を有することで判定可能である. 幼虫はカバノキ, ハンノキ, ヤナギ類など多数の植物を喰う.
本県では南あわじ市での報告がある(宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 27. VIII. 2021, 1ex., 1. VII. 2022, 1ex.
43. コモンギンスジヒメハマキ *Olethreutes subtilanus*
日本では北海道, 本州(山地)に分布する. 同属のモンギンスジヒメハマキ *Olethreutes captiosanus* に酷似するが大きさで判別可能である. 幼虫は枯葉を喰う.
本県初記録と思われる.
【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 18. VI. 2023, 2exs.
44. ニセギンボシモトキヒメハマキ *Pseudohedya plumbosana*
本州に分布する. 幼虫はカエデ科モミジを喰う. 本種の鉛色紋は中帯より内側にほとんどなく中帯外縁に沿って広く橙黄色帯であることなどから区別出来る.
本県初記録と思われる.
【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町田口, 24. VI. 2018, 1ex.
45. ニセウツギヒメハマキ *Celypha subelectana*
日本固有種である. 食草は不明である.
本県では神戸市, 宝塚市, 神河町での報告がある.(宇野ら, 2024)
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 28. V. 2018, 1ex.
46. ナツハゼヒメハマキ *Olethreutes moderatus*
北海道, 本州, アムール, 沿海州に分布する北方系のガである. 幼虫はナツハゼ, ヤマツツジ, レンゲツツジ, ヤマザクラなどを喰う.
本県では神河町と宍粟市の報告がある(宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 9. VI. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 27. VI. 2021, 1ex.
47. ツマジロクロヒメハマキ *Endothenia gentianaeanana*
日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬, 沖縄本島に分布する. 幼虫はカバノキ, ダケカンバ, ハンノキ, ヤナギ類を喰う.
本県では宝塚市と明石市の報告がある(柴田, 2025).
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 27. V. 2019, 1ex.
48. チャモンサザナミキヒメハマキ *Neoanathamna cerina*
本州, 四国, 九州に分布する. 幼虫の食草は不明. 情報が極端に少ないガである.
本県では宝塚市での報告がある(宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 20. VI. 2018, 1ex.
49. セモンカギバヒメハマキ *Ancylis mandarinana*
日本では北海道, 本州, 伊豆諸島(八丈島), 小笠原諸島, 九州に分布する. 幼虫はマメ科ハギを喰う.
本県では南あわじ市での報告がある(宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 27. VIII. 2021, 1ex.
50. フタボシヒメハマキ *Ancylis selenana*
イチゴツツヒメハマキ *Pseudacroclita hapalaspis* に似ているが本種は前翅翅頂が突出し後角部に橙褐色を加味すること等で容易に区別出来る. 日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬に分布する. 幼虫はバラ科アズキ, カスミザクラ, アズキナシを喰う.
本県では相生市での報告がある(高橋, 2023).
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 13. VIII. 2020, 1ex., 2. VI. 2021, 1ex., 4. VI. 2022, 1ex., 10. VI. 2022, 1ex.
51. ナツメカギバヒメハマキ *Ancylis sativa*
本州, 四国, 九州, アッサムに分布する. 幼虫はクロウメドキ科のナツメ, ケンボナシを喰う.
本県では南あわじ市での報告がある(宇野ら, 2024).
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 25. VI. 2019, 1ex.
52. コギンボシヒメハマキ *Enarmonia decor*
本種は日本固有種である. 次種のギンボシヒメハマキ *Enarmonia major* に似るが本種のナマリ光沢のある斑紋はスジ状である.
本県では小野市での報告がある(柴田, 2025).
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 30. V. 2016, 1ex., 4. VI. 2016, 1ex., 28. V. 2018, 1ex.
53. ギンボシキヒメハマキ *Enarmonia major*
北海道, 本州, 四国, 九州, 千島列島に分布する.

本種のナマリ光沢のある斑紋は斑点状である。

本県では明石市と加西市の報告がある(柴田, 2025)。

【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 13. VI. 2018, 3exs., 6. VI. 2019, 2exs.

54. ブナヒメハマキ *Rhopalovalva amabilis*

日本固有種であり、かつてはコナミスジヒメハマキと呼ばれていた。幼虫はブナ科ブナ属を喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野, 2. VI. 2020, 1ex.

55. カラマツヒメハマキ *Spilonota elemitana*

本種は北海道, 本州, 千島列島, 朝鮮に分布する北方系のガである。幼虫はカラマツを喰い, カラマツの重要害虫として知られる。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 21. VI. 2021, 2exs., 5. IX. 2021, 1ex., 15. IX. 2021, 1ex., 8. VI. 2022, 1ex., 17. VI. 2022, 1ex., 26. VII. 2022, 1ex.

56. ウスキシロヒメハマキ *Gibberifera simplana*

日本では北海道, 本州, 四国, 対馬に分布する。幼虫はヤナギ科ヤマナラシを喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 20. VIII. 2021, 2exs., 7. VII. 2022, 1ex.

57. ニセウスキシロヒメハマキ *Gibberifera hepaticana*

北海道, 本州に分布する。幼虫の食草は不明である。ウスキシロヒメハマキ *Gibberifera simplana* と混同されていたが2種に分離された。一般的に本種は翅の色が褐色を呈する。

本県では宍粟市での報告がある(高橋, 2025b)。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 20. VIII. 2021, 1ex.

58. オオナガバヒメハマキ *Epinotia maculana*

日本での分布は北海道, 本州であり, 北方系のガである。本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 3. XI. 2019, 1ex.

59. ニレマダラヒメハマキ *Epinotia signatana*

日本では北海道, 本州, 対馬に分布する。幼虫はニレ科, バラ科の多種の植物を喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原(日光寺山), 7. V. 2016, 1ex. 兵庫県朝来市生野町黒川, 10. VII. 2021, 1ex.

60. セクロモンヒメハマキ *Epinotia rasdolnyana*

日本では北海道, 本州, 九州, 千島列島に分布する。幼虫はカエデ属を喰うという。

本県では宍粟市での報告がある(高橋, 2025b)。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 19. X. 2019, 1ex., 18. X. 2022, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 13. X. 2021, 2exs., 30. X. 2021, 1ex.

61. イツカドモンヒメハマキ *Epinotia pentagonana*

北海道, 本州に分布する。幼虫はニレ科オヒョウを喰うという。和名の由来は白紋がほぼ五角形を呈することに由来する。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 27. VIII. 2021, 1ex.

62. ミドリモンヒメハマキ *Zeiraphera subcorticana*

日本では北海道, 本州に分布する北方系のガである。幼虫はカエデ科の多種の植物を喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 22. VII. 2023, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 30. VII. 2021, 1ex., 6. VIII. 2023, 1ex.

63. クロモンミズアオヒメハマキ *Zeiraphera caeruleumana*

本種の分布は東北および中部の山地で日本固有種であるが少ない種で, 食草は不明である。前翅全体に淡青緑色を呈する。図示した展翅標本写真でも擦れてはいるが前翅前縁にその特徴が認められる。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 14. VII. 2021, 1ex.

64. ミドリヒメハマキ *Zeiraphera virinea*

日本では北海道, 本州, 屋久島に分布する。幼虫はガズミ科カンボクを喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 20. VI. 2020, 1ex., 10. VII. 2021, 1ex., 10. VII. 2022, 1ex.

兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 8. VIII. 2021, 1ex., 20. VIII. 2021, 1ex., 31. VIII. 2021, 1ex., 20. VII. 2022, 1ex.

65. マツツマアカシムシ *Rhyacionia simulate*

北海道, 本州, 四国, 九州に分布する。幼虫はマツ類, アカマツやクロマツの梢頭を喰う。

本県初記録と思われる。

【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野, 18. IV. 2020, 1ex.

66. ウスシロモンヒメハマキ *Notocelia autolitha*

日本では北海道, 本州, 伊豆諸島(神津島, 八丈島), 四国, 九州, 対馬に分布する。幼虫はクワ科コウゾを喰う。

- 本県では神河町と宍粟市の報告(宇野ら, 2024)がある。
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 2. VII. 2020, 1ex., 23. VII. 2020, 1ex., 28. VII. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 30. VII. 2021, 1ex., 3. VIII. 2021, 2exs.
67. スギヒメハマキ *Epiblema sugii*
日本固有種で本州, 九州に分布する。幼虫はキク科ブタクサ、オオブタクサ、オナモミを喰う。
本県では加西市での報告がある(柴田, 2025)。
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 15. VII. 2017, 1ex., 4. VI. 2018, 1ex., 18. VI. 2018, 1ex., 5. X. 2018, 1ex., 17. V. 2019, 1ex., 28. VI. 2019, 1ex.
68. シロズマダラヒメハマキ *Rhopobota toshimai*
日本固有種で本州, 四国, 対馬に分布する。幼虫の食草は不明である。
本県では川西市と香美町の報告がある(宇野ら, 2024)。
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 6. V. 2021, 1ex.
69. ズグロツマキハイロヒメハマキ *Antichlidas trigonia*
ツマキハイロヒメハマキ *Antichlidas holocnista* に似るが本種は頭部が黒い。このガは情報の少ないガであるが, ネットを検索すると宮崎県, 高知県, 富山県などでの画像が見受けられる。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原(日光寺山), 17. VII. 2016, 1ex. 兵庫県神崎郡市川町屋形, 27. VI. 2017, 1ex., 8. VII. 2019, 1ex.(坪田採集) 兵庫県朝来市生野町黒川, 28. VII. 2020, 1ex., 28. VII. 2020, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 20. VIII. 2021, 1ex.
70. シタジロシロモンヒメハマキ *Pammene orientana*
一見プライヤヒメハマキ *Epiblema pryranum* に似ているが白紋の中に淡黒色部があることと, 後翅の基方部分が白色であることで容易に判別できる。北方系のガであり, 日本では東北, 中部山地から報告があるが個体数は少ないようだ。幼虫はスイカズラ科オオカメノキを喰うという。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 20. V. 2023, 1ex., 19. VIII. 2023, 1ex.
71. シロツメモンヒメハマキ *Cydia amurensis*
日本では本州, 四国, 屋久島に分布する。幼虫はブナ科のドングリを喰うらしい。
相生市での報告がある(宇野ら, 2024)。
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 30. VII. 2021, 1ex., 8. VIII. 2021, 1ex., 20. VIII. 2021, 1ex., 27. VIII. 2021, 1ex., 6. VIII. 2022, 1ex., 6. VIII. 2023, 3exs., 12. VIII. 2023, 1ex. 兵庫県養父市丹戸, 22. VII. 2023, 1ex., 19. VIII. 2023, 1ex.
72. ウシタキキオビヒメハマキ *Phiaris komaii*
本州, 四国に分布する。このガに関する情報は極端に少ない。
本県では香美町での報告がある(宇野ら, 2024)。
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 23. VII. 2020, 1ex., 19. VIII. 2020, 1ex.
73. サクラマルモンヒメハマキ *Eudemis porphyrana*
北海道, 本州, 九州に分布する。幼虫はバラ科の多種のサクラ類を喰う。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県神崎郡市川町屋形, 15. VII. 2016, 1ex.(坪田採集)
74. セシロモンヒメハマキ *Epinotia salicicolana*
翅を閉じると背中丸い白紋が印象的である。日本では北海道, 本州に分布する。幼虫はヤマナラシを喰う。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県養父市丹戸, 4. X. 2019, 1ex., 10. X. 2019, 2exs., 19. X. 2019, 1ex., 29. X. 2019, 1ex., 3. XI. 2019, 1ex., 11. XI. 2019, 1ex. 兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 26. IX. 2021, 1ex., 30. IX. 2021, 1ex., 3. X. 2021, 1ex., 8. X. 2021, 1ex.
75. ナガウスツマヒメハマキ *Hedya simulans*
北海道, 本州に分布する。幼虫はシナノキを喰う。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹, 14. VI. 2021, 2exs., 27. VI. 2021, 2exs., 17. VI. 2022, 2exs.
76. ナツハゼシロヒメハマキ *Spilonota* sp.
本州に分布する。幼虫はツツジ科ナツハゼを喰う。このガに関する情報は非常に少ない。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 10. VII. 2022, 1ex.(坪田採集)
77. フシモグリヒメハマキ *Andrioplecta pulverula*
翅を閉じたとき前翅に「ハ」の字形の特徴的な黒紋を有する。本種の日本における分布は本州, 九州である。幼虫はタマバチの虫こぶの中でタマバチの幼虫を喰うらしい。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県朝来市生野町黒川, 5. VIII. 2020, 1ex.(坪田採集)

78. フタテンハイロヒメハマキ *Rhopobota bipunctana*
情報が極端に少ないガである。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県神崎郡福崎町東田原（日光寺山），8. VI. 2016, 1ex.
79. ホソバヒメシンクイ *Pammene germmana*
北海道，本州に分布する。幼虫の食草は不明である。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県朝来市生野町上生野，2. VI. 2020, 1ex. 兵庫県養父市丹戸，24. VI. 2023. 1ex.
80. ホソバシロヒメハマキ *Eucosma lacteata*
本種の分布は北海道，本州であり，北方系のガである。
このガは情報の少ないガである。
本県初記録と思われる。
【採集記録】兵庫県美方郡香美町村岡区大笹，15. VIII. 2021, 1ex., 20. VIII. 2021, 1ex.

- Suzuki, S., Jinbo, U., Yagi, S., & Hirowatari, T., 2024. A new species of *Homalernis* Meyrick, 1908 (Lepidoptera, Tortricidae, Tortricinae) represents the first record of the tribe Schoenotenini in Japan. *Nota Lepidopterologica*, 47, 113-123. <https://doi.org/10.3897/nl.47.120384>
- 高橋弘樹，2023，相生市「羅漢の里」公園で確認された蛾類の記録（2）-相生市三濃山麓の蛾 2020-2023-, きべりはむし, 46(1) : 1-12.
- 高橋弘樹，2025a, 2021年～2025年に西播磨地域で確認した兵庫県初記録及び県内で記録の少ない蛾類について, きべりはむし, 48(1) : 86-100.
- 高橋弘樹，2025b, 兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について, きべりはむし, 48(2) : 29-40.

参考文献

- 井上 寛・杉 次郎・黒子 浩・森内 茂・川辺 湛・大和田 守, 1982. 日本産蛾類大図鑑, 講談社.
- 宇野宏樹, 2024. 兵庫県産蛾類の外観について - 兵庫県産蛾類分布記録データベースの作成にあたって. きべりはむし, 47(2) : 12-27.
- 宇野宏樹・池田 大・阪上 洗多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html (最終閲覧:2026年1月)
- 柴田 剛, 2025. 兵庫県南部で撮影した県内初記録および記録の少ない蛾類, きべりはむし, 48(2) : 21-28.



図1 カタカケハマキ



図2 タテスジハマキ



図3 カラマツイトヒキハマキ
開張 20.5mm



図4 ツヤスジハマキ



図5 フタモンコハマキ
開張 17.0mm



図6 クシヒゲムラサキハマキ



図7 コギンボシハマキ



図8 ホソバハイロハマキ



図9 ミヤマミダレモンハマキ
開張 24.0mm



図10 クロコハマキ



図11 ツマモンエグリハマキ



図12 キボシエグリハマキ
開張 22.0mm



図13 ホノハマキ



図14 コトサカハマキ



図15 マエキハマキ
開張 18.0mm



図16 トサカハマキ
開張 22.0mm



図17 ヨコヒダハマキ



図18 マEMONシロハマキ
開張 18.0mm



図19 ナカジロハマキ



図20 ニレハマキ



図21 ハイミダレモンハマキ
開張 21.5mm



図22 ギンスジカバハマキ

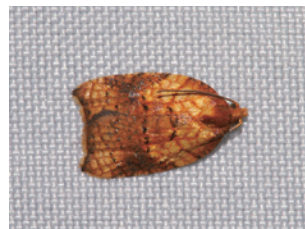


図23 モトキハマキ

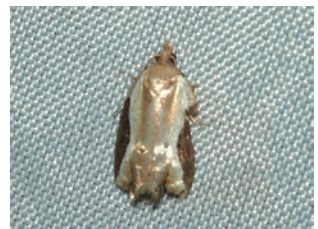


図24 チャモンギンソハマキ



図25 ツマグロギンハマキ
開張 14.5mm



図26 ホソマダラハイロハマキ



図27 トラフハマキ



図28 アミメホソハマキ
開張 16.0mm



図29 ナカハスジベニホソハマキ



図30 サザナミタテゲハマキ



図31 ヘリグロヒメハマキ



図32 ハスオビヒメハマキ
開張 15.5mm



図 33 オオシロアシヒメハマキ



図 34 シロテンシロアシヒメハマキ
開張 15.5mm



図 35 コブシヒメハマキ
開張 17.5mm



図 36 コシロモンヒメハマキ
開張 14.0mm



図 37 キモンヒメハマキ
開張 15.0mm



図 38 オカトラノオヒメハマキ



図 39 カタシロムラサキヒメハマキ



図 40 オオサザナミヒメハマキ
開張 20.5mm



図 41 オオナミスジキヒメハマキ
開張 18.0mm



図 42 クロテンツマキヒメハマキ
開張 17.5mm



図 43 コモンギンスジヒメハマキ
開張 15.5mm



図 44 ニセギンボシモトキヒメハマキ



図 45 ニセウツギヒメハマキ



図 46 ナツハゼヒメハマキ
開張 16.5mm



図 47 ツマジロクロヒメハマキ



図 48 チャモンサザナミヒメハマキ

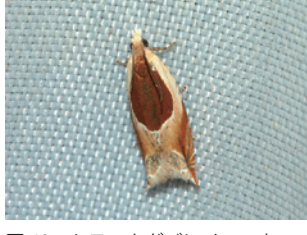


図 49 セモンカギバヒメハマキ



図 50 フタバシヒメハマキ



図 51 ナツメカギバヒメハマキ

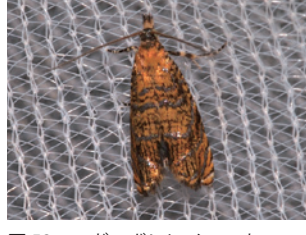


図 52 コギンボシヒメハマキ



図 53 ギンボシキヒメハマキ



図 54 ブナヒメハマキ
開張 12.0mm



図 55 カラマツヒメハマキ
開張 15.0mm



図 56 ウスキシロヒメハマキ
開張 13.5mm



図 57 ニセウスキシロヒメハマキ



図 58 オオナガバヒメハマキ



図 59 ニレマダラヒメハマキ
開張 16.5mm



図 60 セクロモンヒメハマキ
開張 22.0mm



図 61 イツカドモンヒメハマキ



図 62 ミドリモンヒメハマキ



図 63 クロモンミズアオヒメハマキ
開張 16.0mm



図 64 ミドリヒメハマキ



図 65 マツツマアカシムシ
開張 16.0mm



図 66 ウスシロモンヒメハマキ
開張 14.0mm



図 67 スギヒメハマキ



図 68 シロズマダラヒメハマキ



図 69 ズグロツマキハイイロヒメ
ハマキ



図 70 シタジロシロモンヒメハマキ
開張 19.5mm



図 71 シロツモンヒメハマキ
開張 14.0mm



図 72 ウシタキキオビヒメハマキ



図 73 サクラマルモンヒメハマキ



図 74 セシロモンヒメハマキ
開張 21.0mm



図 75 ナガウツマヒメハマキ
開張 24.0mm



図 76 ナツハゼシロヒメハマキ
開張 14.5mm

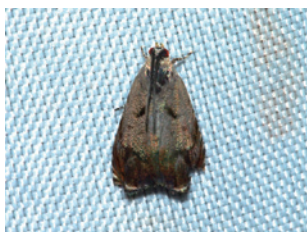


図 77 フシモグリヒメハマキ



図 78 フタデンハイイロヒメハマキ



図 79 ホソバヒメシンクイ



図 80 ホソバシロヒメハマキ

兵庫県南部で撮影した県内初記録および記録の少ない蛾類 (続報)

柴田 剛¹⁾

はじめに

兵庫県南部で昆虫の写真撮影を行ってきており、この中で写真により確認できた蛾類のうち兵庫県内で初確認の種および記録が4市町以下の種について、前号の柴田(2025)で報告したところである。その後新たに確認できた兵庫県内で初確認の種および記録が5市町以下の種、播磨地域で記録のない種について新たに報告する。兵庫県産蛾類分布記録データベース(宇野ほか, 2024)に記録のある市町については【データベース】として記載した。また、前号報告した種で確認場所の漏れていたものについても【前号での報告】として追加報告した。

掲載種と確認情報

ホソハマキモドキガ科

1. ヘリグロホソハマキモドキ *Glyphipterix nigromarginata*
明石市: 明石公園 16. IV .2018 ; 8. IV .2024 ; 17. IV .2026
小野市: 黍田町(加古川河川敷) 22. III .2021
【データベース】宝塚市, 上郡町, 丹波市, 淡路市, 洲本市

キバガ科

2. フジフサキバガ *Dichomeris oceanis*
三木市: 志染町御坂 28. VII .2019
加東市: 下久米(やしろの森公園) 14. VI .2020
多可町: 八千代区大和 8. IX .2020
明石市: 明石公園 17. IX .2020 ; 23. VI .2025
【データベース】神戸市, 宝塚市, 丹波市, 淡路市, 洲本市, 南あわじ市

3. ウスボシフサキバガ *Dichomeris praevacua*
加西市: 琵琶甲町(奥野池) 13. IX .2025
【データベース】神戸市, 上郡町

4. カバイロキバガ *Dichomeris heriguronis*
三木市: 福井(三木山森林公園) 7. VI .2019
明石市: 明石公園 20. VI .2023
【データベース】神戸市, 宝塚市, 三田市, 川西市, 丹波市, 南あわじ市

マダラガ科

5. ブドウスカシクロバ *Hedina tenuis*
明石市: 明石公園 5. V .2025
【データベース】神戸市, 宝塚市, 西宮市, 伊丹市, 養父市

ハマキガ科

6. ハイイロフユハマキ *Kawabeia razowskii*
明石市: 明石公園 6. III .2024 ; 14. III .2026 ; 24. III .2026
【データベース】神戸市, 宝塚市, 相生市, 上郡町, 南あわじ市
7. ツヅリモンハマキ *Homonopsis foederatana*
明石市: 明石公園 9. V .2021
【データベース】相生市, 丹波市, 南あわじ市

8. スジトビハマキ *Pandemis dumetana*
加西市: 網引町(上池・下池) 15. VI .2021
【データベース】上郡町, 養父市

トリバガ科

9. シラホシトリバ *Deuterocopus albipunctatus*
神戸市: 西区平野町中津 23. VIII .2020
明石市: 明石公園 17. IX .2020 ; 6. XI .2023 ; 9. VII .2025 ; 17. X .2025
加古川市: 尾上町養田 13. X .2020
加西市: 網引町(網引湿原) 26. X .2024 下宮木町(新池) 24. IX .2025
【データベース】神戸市, 宝塚市, 西宮市, 上郡町, 南あわじ市

10. モウセンゴケトリバ *Buckleria paludum*
加古川市: 平荘町小畑 11. VIII .2021
【データベース】高砂市
【前号での報告】小野市: 曾根町 10. IX .2025

メイガ科

11. トビイロフタスジシマメイガ *Stemmatophora valida*
明石市: 明石公園 20. VI .2020
加東市: 掬鹿谷 27. VII .2021

¹⁾ Takeshi SHIBATA 兵庫県明石市

【データベース】姫路市, 相生市, 上郡町, 西脇市, 南あわじ市

【データベース】神戸市, 宝塚市, 相生市

ツトガ科

12. サツマツトガ *Calamotropha okanoi*

小野市: 河合西町(陸上自衛隊青野原演習場) 9. VI. 2024

【データベース】宝塚市, 高砂市, 西脇市, 養父市付近, 丹波市

13. ヒメヨツモンヒナタメイガ *Heliothela nigralbata*

加古川市: 志方町廣尾(円照寺) 13. VI. 2018

加西市: 下宮木町(新池) 8. X. 2025

【データベース】宝塚市, 上郡町

【データベース以外】福崎町: 福田 2. VIII. 2021 (高橋・坪田, 2025)

14. クロテンシロミズメイガ *Paraponyx diminutalis*

宝塚市: 玉瀬イヅリハ(武田尾溪谷) 15. V. 2023

宿泊施設「紅葉館別庭あざれ」の北西の川岸近くに使用されなくなったプールが残されており、その廃施設の壁に数頭張りついているのが確認できた。

【データベース】たつの市, 相生市, 上郡町

【データベース以外】市川町; 屋形 18. VII. 2015; 13. VII. 2016; 16. IX. 2016 (高橋・坪田, 2025)

15. ハイマダラノメイガ *Hellula undalis*

加西市: 若井町 19. IX. 2020

明石市: 明石公園 15. VIII. 2024; 27. VIII. 2025; 16. IX. 2025

宝塚市: 千種2丁目(小林聖心女子学院) 9. X. 2024

神戸市: 西区伊川谷町潤和 16. VIII. 2025

【データベース】神戸市, 上郡町, 西脇市, 丹波市, 南あわじ市

16. シロスジエグリノメイガ *Sufetula sunidesalis*

明石市: 明石公園 22. VI. 2023; 1. VII. 2024

【データベース】多可町, 相生市, 上郡町, 香美町, 南あわじ市

ツバメガ科

17. アサケマルバネフタオ *Phazaca theclata*

明石市: 明石公園 14. VII. 2023

【データベース】記録なし

岸田(2020)に国内の記録地は本州(山形県, 静岡県, 三重県, 和歌山県), 沖縄島, 西表島とある。

シャクガ科

18. キイロミモンエダシャク *Eilicrinia parvula*

加西市: 網引町(下里川の岸) 26. IV. 2026

【データベース】西宮市, 伊丹市, 宍粟市, たつの市, 南あわじ市

19. エグレイチモジエダシャク *Agaraeus discolor*

明石市: 明石公園 10. XI. 2024

20. シロジマエダシャク *Eurybeidia languidata*

明石市: 明石公園 29. V. 2022; 17. VI. 2025

【データベース】西宮市, 上郡町, 南あわじ市

21. シロテンコバナナミシャク *Trichopteryx grisearia*

明石市: 明石公園 24. III. 2026

【データベース】宍粟市, 相生市, 上郡町

22. ウスクロオビナミシャク *Pennithera abolla*

宝塚市: 大原野字南宮(素戔鳴神社) 30. X. 2021

【データベース】相生市, 佐用町

ヒトリガ科

23. クシヒゲホシオビコケガ *Aemene altaica*

三田市: 大川瀬字大谷 20. VII. 2020

多可町: 八千代区大和 8. IX. 2020

【データベース】宍粟市, 相生市, たつの市, 上郡町, 佐用町

24. キハダカノコ *Amata germana*

小野市: 黍田町(加古川河川敷) 11. VI. 2016

西脇市: 落方町(野間川河川敷) 20. IX. 2017

加西市: 笹倉町 15. IX. 2018 北条町東高室 1. VII. 2019

佐谷町 2. VII. 2019 網引町 16. VI. 2018; 28. VI. 2021

【データベース】神戸市, 姫路市, たつの市, 西脇市, 丹波市

ヤガ科

25. ナミテンアツバ *Hypena strigata*

三木市: 福井(三木山森林公園) 9. VII. 2020

多可町: 中区牧野(北播磨余暇村公園) 24. VI. 2021

明石市: 明石公園 27. IX. 2021; 16. VII. 2024

【データベース】宝塚市, 相生市, 西脇市, 丹波市

26. オオトビモンアツバ *Hypena occata*

三木市: 福井 17. X. 2018

明石市: 明石公園 17. IV. 2026

【データベース】宝塚市, 西宮市, 宍粟市, 丹波市, 南あわじ市

27. ヒメシロテンヤガ *Amyna axis*

明石市: 明石公園 23. X. 2020; 29. X. 2022; 6. XI. 2023;

13. VIII. 2024

【データベース】神戸市, 相生市, 養父市付近, 丹波市, 南あわじ市

引用文献

岸田泰則, 2020. 日本の蛾, 200pp. Gakken

柴田 剛, 2025. 兵庫県南部で撮影した県内初記録および記録の少ない蛾類. きべりはむし, 48 (2) : 21-28.

高橋輝男・坪田 瑛, 2025. 兵庫県で報告の少ないツト

ガ科の蛾類について. きべりはむし, 48(2) : 15-20.

宇野宏樹・池田 大・阪上洸多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html (参照 2026年4月23日).



図 1. ヘリグロホソハマキモドキ
2021-3-22 小野市.



図 2. フジフサキバガ
2025-6-23 明石市.



図 3. ウスボシフサキバガ
2025-9-13 加西市.



図 4. カバイロキバガ
2019-6-7 三木市.



図 5. ブドウスカシクロバ
2025-5-5 明石市.



図 6. ハイイロフユハマキ
2024-3-6 明石市.



図 7. ツツリモンハマキ
2021-5-9 明石市.



図 8. スジトビハマキ
2021-6-15 加西市.



図 9. シラホシトリバ
2025-9-24 加西市.



図 10. モウセンゴケトリバ
2021-8-11 加古川市.



図 11. トビイロフタスジシマメイガ
2020-6-20 明石市.



図 12. サツマツトガ
2024-6-9 小野市.



図 13. ヒメヨツモンヒナタメイガ
2025-10-8 加西市.



図 14. クロテンシロミズメイガ
2023-5-15 宝塚市.



図 15. ハイマダラノメイガ
2024-10-9 宝塚市.



図 16. シロスジエグリノメイガ
2024-7-1 明石市.



図 17. アサケマルバネフタオ
2023-7-14 明石市.



図 18. キイロミモンエダシャク
2026-4-26 加西市.



図 19. エグライチモジエダシャク
2024-11-10 明石市.



図 20. シロジマエダシャク
2022-5-29 明石市.



図 21. シロテンコバナネミシャク
2026-3-24 明石市.



図 22. ウスクロオビナミシャク
2021-10-30 宝塚市.



図 23. クシヒゲホシオビコケガ
2020-7-20 三田市.



図 24. キハダカノコ
2016-6-11 小野市.



図 25. ナミテンアツバ
2020-7-9 三木市.



図 26. オオトビモンアツバ
2018-10-17 三木市.



図 27. ヒメシロテンヤガ
2022-10-29 明石市.

兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について (2)

高橋弘樹¹⁾

はじめに

筆者が兵庫県西播磨地域（相生市，たつの市，赤穂市，宍粟市，太子町，上郡町，佐用町）で撮影・採集した種のうち，兵庫県内において初記録とみられる種，記録の少ない種，記録された地点は少なくないものの発見地の近隣で未記録の種について報告する。

兵庫県内に記録はあるが播磨地域全域で初記録の種には○を，西播磨地域で初記録の種には☆を種名の右に付した。採集・撮影者は特記したものを除き，全て筆者であるため記載を省略している。

各種資料

兵庫県において初記録とみられる種

キバガ科

1. サビイロクロキバガ *Teleiopsis moteleela* 図 1
1ex., たつの市新宮町光都, 29. III. 2024. :1 ♂, 同地, 23. III. 2026.
ライトトラップに飛来した。前翅の地色は暗褐色で，多数の赤褐色点をもつため錆びた金属のような印象となる。国内では本州，国外では朝鮮半島南部に分布（広渡ほか，2013）している。

ホソガ科

2. クロコハマキホソガ *Caloptilia kurokoi* 図 2
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.
標高約 1,000m 地点でのライトトラップに飛来した。夏型と秋型があり，顔や前翅，前翅の三角紋の色などが異なる。今回確認した秋型はやや大きく開帳 16mm 内外，全体に濃色になり，顔面は濁った黄色，その他は暗褐色，前翅の三角紋は白みが強く褐色鱗が混じる（広渡ほか，2013）。
3. エノキハマキホソガ *Caloptilia celtidis* 図 3
1 ♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.
前種と同じ日に飛来した。本種も夏型と秋型があり，色彩と大きさが異なる。国内では本州，九州に分布し，エノキ，エゾエノキなどエノキ属を寄主植物とする（広渡ほか，2013）。

ヒラタマルハキバガ科

4. ユミモンマルハキバガ *Semioscopis japonicella* 図 4
1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 18. IV. 2026.
ライトトラップに飛来した。広渡ほか（2013）によると，国内では本州（岩手県以南），四国，九州に分布し，中部地方・関東地方では 4 月中旬から 5 月中旬に成虫が灯火に飛来するとのことである。

ハマキガ科

5. マエキハマキ *Acleris pulchella* 図 5
1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 19. X. 2025.
館敷地内に設置したライトトラップに飛来した。国内では北海道～九州，対馬に分布し，成虫は 6～8 月と 9～11 月に確認されている（那須ほか，2013）。

ハマキモドキガ科

6. イラクサハマキモドキ *Anthophila fabriciana* 図 6
1 ♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18. IV. 2026.
佐用町昆虫館の外壁に日中静止していた。那須ほか（2013）によると国内の分布は北海道，本州で，成虫は昼飛性で種々の花に飛来し，5～8 月に得られている。寄主植物はイラクサ。昆虫館の敷地内及び周辺では目につけば除去されるが，イラクサ属または近縁の植物が自生している。

シャクガ科

7. マダラシロエダシャク *Hesperumia silvicola* 図 7
1 ♂, 佐用町船越, 18. X. 2025.
瑠璃寺仁王門横の高台に設置したライトトラップに飛来した。関東以西の本州，四国，九州に分布する日本固有種で，6 月下旬～7 月上旬と 9～10 月に出現する（岸田，2011a）。
8. マエキナカジロナミシャク *Dysstroma korbi* 図 8
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.
ライトトラップに飛来した。本種はウスキナカジロナミシャク，ツマキナカジロナミシャクに酷似する。♀交尾器のコルプス・ブルサエは細長く，ドクツス・ブルサエとの接続部に袋状の肥大部が生じる。国内では北海道及び関東地方から中部地方の低山地から山地に産する（岸田，2011a）。

¹⁾ Hiroki TAKAHASHI 兵庫県相生市

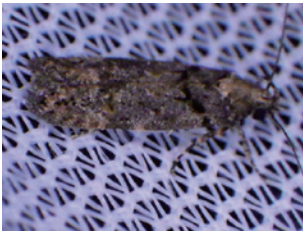


図1 サビイロクロキバガ, たつの市, 2026/3/23

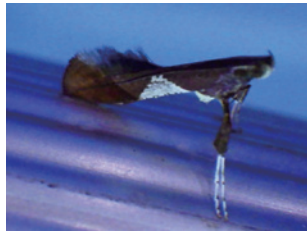


図2 クロコハマキホソガ, 宍粟市, 2025/11/12



図3 エノキハマキホソガ, 宍粟市, 2025/11/12



図4 ユミモンマルハキバガ, 宍粟市, 2026/4/25



図5 マエキハマキ, 佐用町, 2025/10/19



図6 イラクサハマキモドキ, 佐用町, 2026/4/18



図7 マダラシロエダシャク, 佐用町, 2025/10/18

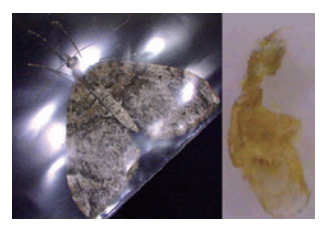


図8 マエキナカジロナミシャクと♀交尾器, 宍粟市, 2025/11/12



図9 ハイマダラホソヤガ, 相生市, 2026/2/26



図10 ハイマダラホソヤガ, 相生市, 2026/3/20

メイガ科

11. フタシロテンホソマダラメイガ *Assara korbi* ☆ 図12
1ex., 上郡町金出地, 22. V. 2024.; 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18. X. 2025.
ライトトラップに飛来した。国内全域に分布し、成虫は5～10月に平地から山地まで見られるがあまり多くないとされる(那須ほか, 2013)。神戸市・川西市・神河町・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

ヤガ科

9. ハイマダラホソヤガ *Sigmuncus tessellatus* 図9, 図10
1 ♀, 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 26. II. 2026.; 1 ♂, 同地, 20. III. 2026.
外灯に飛来していたものを採集した(高橋, 投稿中)。2026年2月に新種記載された種で、前翅地色は灰黄褐色、垂外縁線、外横線は細かく鋸歯状となる。腎状紋と環状紋は不明瞭で黒点が現れる。中室下部、後角付近に淡黄色から赤褐色影が出現する個体もある(稀に基部も黄褐色となる個体もある)。後翅のCu2沿いに黒色鱗片が現れることが多い(枝, 2026)。記載論文で採集地として香川県を除く四国3県と九州本土のほぼ全域及び岩岐のデータが示されているが本州は含まれておらず、採集時期も6月～10月で冬から春の採集例は含まれていない。斑紋の変異は大きいようだ。

シャクガ科

12. フタテンソトグロキエダシャク *Pseudepione shiraii* ○ 図13
1 ♀ 7exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. XI. 2025.; 2exs., 同地, 12. XI. 2025.
ライトトラップに飛来した。前後翅の外横線は大きく湾曲する。年1化で9～11月に出現。寄主植物としてヒメシヤラが確認されている(岸田, 2011a)。兵庫県内の記録は南あわじ市のみである(宇野ほか, 2024)。
13. ウスジロエダシャク *Ectropis obliqua* ○ 図14
1 ♂, 相生市矢野町瓜生 羅漢の里, 5. III. 2026.
外灯に飛来していた。色彩斑紋は変化に富むが、前翅の外横線が後縁に対してあまり傾斜せず、内横線にほぼ並行して走る。♂では後翅脛節に毛束が発達する(岸田, 2011)。神戸市・川西市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

兵庫県で記録の少ない種及び発見地の近隣で未記録の種 ヒラタマルハキバガ科

10. アケボノマルハキバガ *Agonopterix laterella* 図11
1 ♀, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.
ライトトラップに飛来した。国内では本州, 四国, 九州, 国外ではロシア南東部, ヨーロッパに分布する(広渡ほか, 2013)。相生市・上郡町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

14. ヒメシタコバネナミシャク *Trichopteryx microloba* ○ 図15
2exs., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 11. IV. 2026.; 1ex., 同地, 25. IV. 2026.
ライトトラップに飛来した。翅形はシロシタコバネナミシャク

に似て細長い。地色は暗く、中・外横帯はかなり接近するか合流する(岸田, 2011a)。兵庫県内の記録は宝塚市のみである(宇野ほか, 2024)。

15. ヒメクロオビフユナミシヤク *Operophtera crispifascia* 図 16

1♂, 宍粟市波賀町鹿伏, 19. XI. 2022.; 1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。クロオビフユナミシヤクに似るが、前翅中横帯が外方に傾斜し、第1室で外側に角張り、後縁で外横帯に接近する(岸田, 2011a) ことで識別できる。ブナ帯に広く産するが、標高が低くてもイヌブナがあれば生息できるようで、鹿伏の標高は500m程度、これまで兵庫県内で唯一記録されていた佐用町高蔵寺(川副, 1987)は200m程度であることから、県内では丘陵地から山地まで広く分布している可能性がある。

16. ナカアオナミシヤク *Eupithecia sophia* ☆ 図 17

1♀, 上郡町金出地, 27. IX. 2021.; 1♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 18. X. 2025.

ライトトラップに飛来した。関東地方以西から九州の平地から山地まで広く分布する(岸田, 2011a)。県内では神戸市・西脇市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

シャチホコガ科

17. エゾクシヒゲシャチホコ *Ptilophora jezoensis* ○ 図 18

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 12. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。クシヒゲシャチホコより1週間から10日早く出る(岸田, 2011b) とされる。この場所での飛来数は2025年11月1日は両種とも0, 同月12日は本種1頭, クシヒゲシャチホコ15頭以上, 同月23日は本種0頭, クシヒゲシャチホコ5頭だった。朝来市・養父市・香美町で記録されている(宇野ほか, 2024)。

ヒトリガ科

18. ベニゴマダラヒトリ *Utetheisa pulchelloides* ○ 図 19

1♀, 赤穂市高野 千種川河川敷, 23. X. 2025.

日中、千種川河川敷の草むらから驚いて飛び立ったものを採集した。飛翔時は青みがかった白色に見え、飛び方と合わせてホシベッコウカギバのように見えた。草むらの高さは1m程で、セイタカアワダチソウの花が多く見られた。偶産種とされており、兵庫県内では豊岡市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

ヤガ科

19. クロスジヒメアツバ *Schranksia costaestrigalis* 図 20

1♂, たつの市御津町碓岩 みはらしの森, 7. X. 2025.; 1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。三田市・相生市・上郡町・西脇市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

20. クロモンホソコヤガ *Araeopteron kurokoi* 図 21

1♂, 佐用町船越 佐用町昆虫館, 19. X. 2025.; 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 18. IV. 2026.

ライトトラップに飛来した。開張10mm内外の小型種で、兵庫県内の記録は上郡町高田台(大貝, 2018)のみである。

21. カザリツマキリアツバ *Tamba igniflua* 図 20

1ex., 上郡町金出地, 15. VIII. 2022.; 1ex., 同地, 22. V. 2024.; 1ex., 佐用町船越 佐用町昆虫館, 28. VI. 2025.; 1ex., 同地, 18. X. 2025.

ライトトラップに飛来した。暖地に産するがあまり多くない(岸田, 2011b) とされる。神戸市・宝塚市・多可町・相生市・川西市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

22. マンレイツマキリアツバ *Polysciera manleyi* ☆ 図 23

1♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 29. VIII. 2025.

ライトトラップに飛来した。北海道から九州にかけて分布する日本固有種で、6~8月に出現する。翅を立てて静止する(岸田, 2011b)。西脇市・養父市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

23. セアカキンウワバ *Erythroplusia pyropia* ☆ 図 24

1♂, 佐用町船越, 26. X. 2025. 三村剣義.

瑠璃寺仁王門横の高台の、植物保護のために設けた鹿柵内で日中に訪花していたものを三村剣義氏が採集した。寄主植物はセリ、エゾトリカブト(岸田, 2011b) である。神戸市・宝塚市・西脇市・養父市・丹波市・南あわじ市で記録されている(宇野ほか, 2024)。

24. コケイロホソキリガ *Lithophane nagaii* ☆ 図 25

2♂, 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 11. IV. 2026.; 2exs., 同地, 18. IV. 2026.

ライトトラップに飛来した。前翅後角付近にV字状の白条がある。10~11月頃に羽化し、翌年4月頃まで生存する(岸田, 2011b)。兵庫県内の記録は兵庫県西部・神戸町・養父市・香美町となっている(宇野ほか, 2024)。

25. ヤマノモンキリガ(キシダモンキリガ) *Sugitania clara* ○ 図 26

1ex., 宍粟市波賀町鹿伏, 19. XI. 2022.; 1ex., 上郡町金出地, 14. I. 2023.; 1ex., 同地, 22. II. 2026.; 1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 1. XI. 2025.

ライトトラップに飛来した。照葉樹林帯から夏緑広葉樹林帯にまで広く分布(小林, 2016) する。兵庫県内での記録は西宮市・

川西市付近・養父市・香美町となっている(宇野ほか, 2024).

26. イイジマキリガ *Orthosia ijimai* ○ 図 27

1ex., 宍粟市千種町西河内 ちくさ高原, 11. IV. 2026.

ライトトラップに飛来した. 春先に出現する. 日本固有種で北海道, 本州, 九州に分布する(岸田, 2011b). 兵庫県内の記録は養父市のみ(宇野ほか, 2024)である.

以上 26 種を報告する. 兵庫県内で初記録の種が 9 種, 播磨地域全域で初記録の種が 7 種, 西播磨地域で初記録の種が 5 種である.

謝辞

末筆ではあるが, 同定と資料入手に関して大変お世話になった阪上洗多氏に厚く御礼申し上げる.

引用文献

- 宇野宏樹・池田 大・阪上洗多, 2024. 兵庫県産蛾類分布記録データベース. https://www.konchukan.net/moths/moths_of_hyogo.html (参照 2026 年 4 月 22 日).
- 枝 恵太郎, 2026. 日本産ホソヤガ亜科 *Sigmuncus* 属の 1 新種. *Tinea*, 28 (1): 53-55.
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1 区画における昆虫相. 94pp. 播磨長翅目研究センター.
- 川副昭人, 1987. 佐用郡三日月町蛾覚え書. てんとうむし, 10: 289-298.
- 岸田泰則(編), 2011a. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp. 学習研究社.
- 岸田泰則(編), 2011b. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416pp. 学習研究社.
- 小林秀紀, 2016. 月刊むし・昆虫図説シリーズ 8 日本の冬夜蛾. 112pp. 有限会社むし社.
- 高橋弘樹, 投稿中. 兵庫県相生市でハイマダラホソヤガを採集. 月刊むし, 有限会社むし社.
- 那須義次・広渡俊哉・岸田泰則(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 IV. 522pp. 学習研究社.
- 広渡俊哉・那須義次・坂巻祥孝・岸田泰則(編), 2013. 日本産蛾類標準図鑑 III. 360pp. 学習研究社.



図 11 アケボノマルハキバガ,
宍粟市, 2025/11/12



図 12 フタシロテンホソマダラメイガ,
佐用町, 2025/10/18



図 13 フタテンソトグロキエダシャク,
宍粟市, 2025/11/1



図 14 ウスジロエダシャク,
相生市, 2026/3/5



図 15 ヒメシタコバネナミシャク,
宍粟市, 2026/4/25



図 16 ヒメクロオビフユナミシャク,
宍粟市, 2025/11/12

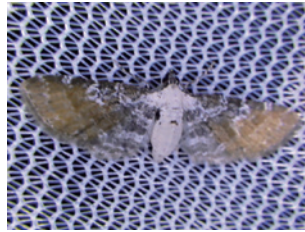


図 17 ナカアオナミシャク,
上郡町, 2021/9/27



図 18 エゾクシヒゲシャチホコ,
宍粟市, 2025/11/12



図 19 ベニゴマダラヒトリ,
赤穂市, 2025/10/23



図 20 クロスジヒメアツバ,
宍粟市, 2025/11/1



図 21 クロモンホソコヤガ,
佐用町, 2025/10/19



図 22 カザリツマキリアツバ,
上郡町, 2022/8/15



図 23 マンレイツマキリアツバ,
宍粟市, 2025/8/29



図 24 セアカキンウワバ,
佐用町, 2025/10/26



図 25 コケイロホソキリガ,
宍粟市, 2026/4/11

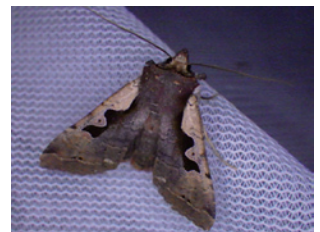


図 26 ヤマノモンキリガ,
宍粟市, 2025/11/1



図 27 イイジマキリガ,
宍粟市, 2026/4/11

上郡町のハナノミ科 (Coleoptera: Mordellidae)

大貝秀雄¹⁾

ハナノミという名はしばしば木の花に集まるヒメハナノミ族を特に意識してつけられた名称なのであろう。花をすくうと、時として他の虫を探すのがいやになるくらい無数に小さな甲虫がネットの中で跳ねまわっている。確かにノミという感じがする。そしてその同定が実に困難である。同定の主要なキーは足の前跗節の形状、触角の節長比、小顎鬚の形状、後脛節と後跗節の段刻の数と形状など、甲虫研究者にとっては特別なものではなさそうだが、跗節は殊の外に小さく細く壊れやすいし、触角の節長の記載も実際に見るとアバウトなところがあると感じられる。筆者にも以前の記録(大貝, 2018)の多くを訂正せざるを得なかった経験がある(大貝, 2022)。それに拍車をかけて、素人をヒメハナノミから遠ざける元凶が、属名の難解さであろう。紛らわしいものを列挙すると *Mordellina*, *Mordellistena*, *Mordellochroa*, *Falsomordellina*, *Falsomordellistena*, *Pseudomordellina*, *Pseudomordellistena*, *Pseudotolida* となり、筆者などはこれを見ただけで絶望感を覚えるのである。一方、ハナノミ族は琉球列島では大型の美しい種が多く、花に集まるわけでもなくてクワズイモなどの葉上に堂々と静止する姿を容易に見ることができる(図1)が、残念ながら本土域ではそのようなチャンスはまれである。

今回、鳥取県立博物館の鶴智之博士の厚意により、上郡町で得たハナノミ科の標本を同定することができたので、その結果を報告する。以下の記録中、「★」印を付した標本は鶴博士同定にかかるものであり、その他は筆者が同定した。ほとんどの標本は筆者が保管しているが、一部鶴博士の手許にある。

以下のリストは、族レベルで大別し、族内の配列は、類縁関係にかかわらず学名のアルファベット順とした。なお、ヒメハナノミ族や小型のハナノミ族の種の多くは標本写真による同定が不可能なので、標本写真を掲載することは避けた。

上郡町のハナノミ科

ハナノミ族 Mordellini Latreille, 1802

1. キボシハナノミ *Hoshihananomia hananomi* (Kôno, 1928)
高田台 古墳公園; 1ex., 7. VI. 2024.
園内の小道沿いの下草葉上に静止。

2. クリイロヒゲハナノミ *Macrotomoxia castanea* Pic, 1922
八保丙; 1♂ 1♀, 3.VIII.2024, 1♀, 14. VII. 2025, 1♀, 23. VII. 2025 (生態写真撮影のみ)。

大型種。走光性の強い種らしく、上郡で確認した全個体が、終日点灯しているトンネル内壁面に静止していたものである(図2)。沖縄県名護市でも灯火に飛来する本種を多数確認した経験がある。兵庫県では姫路市でも記録されている(檀野, 2025)。

3. トガリバクハナノミ *Mordella oxyptera* Nomura, 1958
八保丙; 1ex., 7.VI.2024. 山野里; 1ex.★, 14. VI. 2021. 上郡 鈴の宮公園; 1ex., 17. V. 2024. 高田台 古墳公園; 1ex., 7. VI. 2024.

ハナノミ族としては小型種。クリ、シャリンバイなどの花で採集。稀な種であると考えられる(鶴, 私信)。

4. キンオビハナノミ *Variimorda (Variimorda) flavimana* (Marseul, 1877)
金出地; 1♂★, 21. V. 2020. 八保丙; 1ex., 31. V. 2025



図1: ハリオオビハナノミ *Glipa hatayamai* (沖縄県名護市)。



図2: クリイロヒゲハナノミ (上郡町八保丙)。

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

ハナノミ族としては小型種。佐用町でも記録されている(藤江・吉田, 2011)

ヒメハナノミ族 *Mordellistenini* Ermisch, 1941

5. ハセガワヒメハナノミ *Falsomordellina hasegawai* (Nomura, 1951)

野桑 白旗山登山口; 1♂★, 7. VII. 2023.

6. ナミアカヒメハナノミ *Falsomordellina luteoloides* (Nomura, 1961)

旭日; 1♀, 29. VII. 2019, 1♀, 17. VII. 2022. 山野里; 1♂★, 20. VI. 2020. 上郡 鈴の宮公園; 1♂, 20. VI. 2020, 1♀, 26. VI. 2022, 1♀, 11. III. 2023. 小野豆; 1♀★, 7. V. 2020, 1♀, 10. VIII. 2021, 1♀, 7. VII. 2022. 与井新; 1♀, 17. VI. 2021.

鈴の宮公園ではオニグルミから採集。佐用町でも記録されている(藤江・吉田, 2011)

7. タカオヒメハナノミ *Falsomordellina rosseola* (Marseul, 1876)

赤松 白旗山; 2♀, 13. V. 2025. 旭日; 1♂★ 1♀, 8. V. 2025, 1♀, 5. VI. 2025. 八保丙; 1♀, 22. V. 2025.

宍粟市(赤西溪谷), 佐用町でも記録されている(藤江・吉田, 2011; Tsuru, 2021)

8. フタモンヒメハナノミ *Falsomordellistena* (*Falsomordellistena*) *altestrigata* (Marseul, 1876)

金出地; 1ex. ★, 28. VI. 2022. 小野豆; 1ex., 7. VII. 2022. 高田台 一丁目公園; 1♂ 2exs., 3. VII. 2019, 5 exs., 8. VII. 2024. 高田台 古墳公園; 1ex., 15. VII. 2020, 1ex., 7. VI. 2024.

高田台一丁目公園ではネズミモチ類の花から採集。姫路市でも記録されている(檀野, 2022)

9. クリゲヒメハナノミ *Falsomordellistena* (*Falsomordellistena*) *trichophora* (Nomura, 1951)

旭日; 1ex., 1. VII. 2025, 1♀, 7. VII. 2025. 山野里 高峰山; 1ex., 25. VII. 2025. 上郡 鈴の宮公園; 3exs., 20. VI. 2020. 小野豆; 1♂, 11. VII. 2021, 1♀, 11. VII. 2023. 高田台 古墳公園; 2♂★, 15. VII. 2020.

ネムノキ, タケニグサ, ほか樹種未確認の花から採集。

10. キンモンヒメハナノミ *Falsomordellistena* (*Falsomordellistenoda*) *auriguttata* Nomura, 1951

与井; 1♂★, 22. V. 2023.

佐用町でも記録されている(藤江・吉田, 2011)

11. サトウヒメハナノミ *Falsomordellistena* (*Falsomordellistenoda*) *satoi* (Nomura, 1951)

八保丙; 1♂★, 20. V. 2024.

フタリシズカとシダ類の混生地をスイーピングして採集。佐用町でも記録されている(藤江ほか, 2011)

12. チャイロヒメハナノミ *Glipostenoda phengotrichia* Nomura, 1951

赤松 白旗山; 1♀★ 1ex., 4. VII. 2023. 金出地; 1ex., 22. VI. 2020, 2exs., 22. VII. 2020, 1ex., 11. VII. 2022. 野桑; 1ex., 7. VII. 2023. 旭日; 1ex., 19. VII. 2020, 2exs., 11. VIII. 2021, 1ex., 7. VII. 2025. 行頭; 1ex., 1. VII. 2020. 山野里 高峰山; 3exs., 3. VII. 2025. 上郡 鈴の宮公園; 2exs., 8. VIII. 2021. 小野豆; 1ex., 11. VII. 2021, 1♀★ 1ex., 11. VII. 2023. 与井; 1♀, 22. VII. 2021. 高田台 一丁目公園; 1ex., 3. VII. 2019. 高田台 古墳公園; 2exs., 15. VII. 2020.

リョウブ, ネズミモチ類, タケニグサほか樹種未確認の種々の花から採集。上郡町では最も普通に得られるハナノミである。佐用町でも記録されている(藤江・吉田, 2011)

13. シズオカヒメハナノミ *Glipostenoda shizuokana* (Kôno, 1935)

旭日; 1♀, 23. VII. 2022. 高田台; 1♀, 19. VII. 2003, 1♂, 16. VII. 2004, 1♀, 17. VII. 2005, 1♀, 1. VIII. 2005, 1♀★, 16. VII. 2006.

走光性を有すると思われ, 上記1♂5♀中1♂2♀が, 室内に蛍光灯を点灯した窓に飛来した。川西市, 姫路市でも記録されている(檀野, 2022; Tsuru, 2021)

14. セアカヒメハナノミ *Konomorda takizawai* (Kôno, 1932)

八保丙; 1♂★, 10. VI. 2024, 1♂, 17. VI. 2024.

2♂ともにクリの花房をすくって採集。

15. トゲナシヒメハナノミ *Mordellina atrofusca* (Nomura, 1951)

旭日; 1♀, 1. VII. 2025, 1♀, 29. VII. 2025. 八保丙; 3♀, 27. VI. 2025. 山野里 高峰山; 1♀, 4. VI. 2024, 1♀★, 10. VII. 2025.

旭日では花期終了後のオニグルミから得た。佐用町でも記録されている(藤江・吉田, 2011)

16. チャオビヒメハナノミ *Mordellina brunneotincta* (Marseul, 1876)

山野里 高峰山; 1♂, 25. VII. 2023. 小野豆; 1♀, 31. VII. 2023. 与井; 1♂★, 3. VII. 2021.

背面の斑紋が特異な小型種。姫路市・佐用町でも記

録されている (檀野, 2025; 藤江・吉田, 2011).

17. クロヒメハナノミ *Mordellistena comes* Marseul, 1876
与井新; 3♂ 1♀, 13. VI. 2018. 西野山; 1♂, 12. V. 2025.
高田台; 1♂★, 9. V. 2015, 1♀, 14. V. 2018.

脛節の距なども含め全体が真黒で, 毛も濃色のため,
同定の比較的容易な種である。ただ, 別に近似の不明種
が高田台でとれている。高田台の♀はネギの花で採集。

18. シロウズクロヒメハナノミ *Mordellistena shirozui*
Nomura, 1951

八保丙; 1♂ 1♀★, 10. VI. 2024. 高田台 古墳公園; 1♂★,
7. VI. 2024.

八保丙ではクリの花房で採集。姫路市でも記録され
ている (檀野 2025) が, 稀な種であるという (鶴, 私信)。

19. トケジクロヒメハナノミ *Mordellistena tokeji* Nomura,
1951

旭日; 1♀, 1. VI. 2021, 1♀, 17. VI. 2025. 八保丙; 1♀, 3. V.
2025, 1♀★, 11. V. 2025, 1♀, 31. V. 2025. 上郡 鈴の
宮公園; 1♀★, 15. V. 2021. 小野豆; 3♂, 28. V. 2016. 西
野山; 2♀, 21. V. 2019.

20. アカヒメハナノミ *Mordellistenoda aka* (Kôno, 1928)

旭日; 1♀, 31. VII. 2024.

群生するシダ類をスイーピングして採集。佐用町で
も記録されている (藤江ほか, 2011)

21. セグロヒメハナノミ *Pseudomordellina fusucosuturalis*
(Nomura, 1961)

与井新; 1♂★, 27. V. 2023.

22. アマミヒメハナノミ *Pseudomordellistena amamiensis*
(Nomura, 1951)

行頭; 2♂★, 1. VII. 2020. 八保丙; 1♂, 17. VI. 2024. 小野豆;
1♂, 11. VII. 2021, 1♀, 11. VII. 2023. 与井; 1♂, 3. VII. 2021.
クリの花房とタケニグサの花で採集例がある。

23. カタモンヒメハナノミ *Pseudomordellistena arakii*
(Nomura, 1951)

旭日; 1♂★, 17. VI. 2025.

24. チビヒメハナノミ *Pseudomordellistena chibii* (Kôno,
1932)

岩木乙; 1♀★, 2. VII. 2022. 八保丙; 1♀★, 10. VI. 2024.
小野豆; 1ex. ★, 11. VII. 2021.

八保丙ではクリの花房で採集。

25. アワヒメハナノミ *Pseudotolida awana* (Kôno, 1932)

与井; 1♀, 22. VII. 2021. 高田台; 1ex. ★, 23. VI. 2007, 1♀,
28. VI. 2016.

佐用町でも記録されている (藤江ほか, 2011)

26. オオスミヒメハナノミ *Pseudotolida ohsumiana*
(Nakane, 1957)

小野豆; 1♀, 10. VIII. 2021. 与井; 1♀★, 22. VII. 2021.

佐用町でも記録されている (藤江・吉田, 2011)

27. ガロアヒメハナノミ *Tolidopalpus galloisi* (Kôno, 1932)

野桑 白旗山登山口; 1♂, 7. VII. 2023; 与井; 1♀★, 21.
VI. 2020.

佐用町でも記録されている (藤江・吉田, 2011)

謝辞

ここに報告したハナノミ族の一部とヒメハナノミ族
全種は鳥取県立博物館の鶴智之博士により同定がなされ
た。鶴博士の協力がなければ本報告はなし得なかったも
のであり, 深く謝意を表す。

引用文献

- 檀野将平, 2022. 兵庫県姫路市南部で採集した甲虫類
の記録. きべりはむし, 45(1): 3-65.
- 檀野将平, 2025. 姫路市南部における甲虫類の追加記録.
きべりはむし, 48(1): 35-72.
- 藤江隼平・吉田浩史・安達誠文・吉田貴大・旭和也・藤
原淳一・安岡拓郎, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆
虫相—マレーゼトラップで得られた甲虫目, 膜翅目,
双翅目およびライトトラップで得られた鱗翅目の昆
虫について—. きべりはむし, 33(2): 4-20.
- 藤江隼平・吉田浩史, 2011. 佐用町昆虫館周辺の昆虫
相 (2). —マレーゼトラップで得られた甲虫目, 双
翅目, カマキリ目, 直翅目の昆虫について (追加) —.
きべりはむし, 34(1): 3-5.
- 大貝秀雄, 2018. 兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1
区画における昆虫相. 播磨長翅目研究センター, 上
郡. 94pp.
- 大貝秀雄, 2022. 『兵庫県赤穂郡上郡町の住宅団地内 1
区画における昆虫相』の正誤リストならびに, この
昆虫相に新たに追加される種名一覧. きべりはむし,
45(2): 61-65.
- Tsuru, T. K. 2021. Revision of the tribe Mordellistenini
(Coleoptera: Mordellidae) in Japan. Japanese
Journal of Systematic Entomology, Monographic
series No. 5, pp282.

上郡町で近年確認された新参外来昆虫 (2)

大貝秀雄¹⁾

筆者は先に「上郡町で近年確認された新参外来昆虫」として、7種の記録をまとめ報告した(大貝, 2023)。しかしその後も新参外来昆虫の分布拡大は途切れることなく、以下に紹介する4種を上郡町から新たに確認することができたので報告する。

ツマキトゲナシクモバチ *Lissocnemis brevipennis* (Kohl, 1906)

高田台; 1♀ (図1), 24. VIII. 2025. 体長 20mm.

採集個体は筆者宅の屋外に設置した給湯器下の地上を徘徊していたものであり、付近の地面には玉砂利をしいてあった。本種は東南アジアと南アジアに広く分布すると考えられており、国内最初の標本は岡山県倉敷市で2016年に採集された。その翌年には岡山市、兵庫県明石市でも採集され、ほかに大阪府八尾市の2016年の記録などがあるという(Matsumoto et al., 2018)。以上の過去の記録をみると、上郡町も当時から分布圏内に入っていた可能性はある。しかし、前翅中央の透明斑など雌において特に顕著な特徴をもつ本種を見過ごしていたとは考えにくいので、上郡町への進出は比較的近年のことであろうと思われる。

アメリカピンクノメイガ *Pyrausta inornatalis* (Fernald, 1885)

金出地; 1♀ (図2), 7. X. 2025. 開張 17mm.

北米原産のツトガ科の小型種で、国内では2019年に岐阜県で最初に確認された(宮野, 2020)。その後、兵庫県(島崎・島崎, 2021)をはじめ各地であいついで記録されるようになった。サルビアに強く依存する種なので、山野で見られる可能性は低いために発見が遅れたものと思われ、実際はもっと早い時期に国内の分布を拡げていたと想定される。

金出地ダムを見あげる位置にある四阿(あずまや)前にプランターで植栽されたサルビアがあったので、筆者は本種のことを思い出し、見ると約束通り花上に静止した姿を見ることが出来た。

シナチクノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925)

上郡; 1♂ (図3), 4. IX. 2025. 開張 33mm.

国道沿いのコンビニエンスストア正面のガラス壁に静止していた。本種は中国南部と台湾から知られている大型のノメイガで、2020年に愛知県で初めて採集された(岩下・松井, 2022)のち分布を広げ、2023年には兵庫県ハチ北高原でも記録された(阪上, 2024)。上郡町でも既に高橋(2025)が金出地で確認している。幼虫はタケ類を食草とすることから、タケノコ産地では警戒が強められている(京都府病害虫防除所, 2024)。



図1: ツマキトゲナシクモバチ♀.



図2: アメリカピンクノメイガ♀. サルビア花上.

¹⁾ Hideo OGAI 兵庫県上郡町

モンクチビルテントウ *Platynaspis maculosa* (Weise, 1910)

高田台; 1 ♀, 5. V. 2024, 1 ♀, 8. VII. 2025 (図4). 西野山; 1 ♀, 4. V. 2025. 上郡 鈴の宮公園; 1 ♀, 14. V. 2025. 旭日; 1 ♂, 8. IX. 2025. 体長♂: 2.8mm, ♀: 2.9 ~ 3.2mm.

本種は中国, 台湾とベトナムに分布し (佐々治・谷口, 2003), 国内では 1989 年に沖縄本島で初めて採集され (松原ら, 1998), その後, 奄美大島, 九州, 四国, 本州の各地から相次いで記録され, 急速にその分布を拡大している (阪本, 2018). 本州では静岡県で最初に記録され (石川, 2011), 兵庫県でも宝塚市と西宮市から報告されている (宇野, 2021). 上郡町における最初の標本は, 筆者宅の庭に植栽するニシキギの花に集まる昆虫を調査して得られた. 翌年になって, 同地を含む町内の 4 カ所から相次いで確認されたが, その生息環境には特定の傾向を認めなかった.

本種は同属のヨツボシテントウ *Platynaspis lewisii* (Crotch, 1874) と外観が類似しているが, 翅鞘の 2 対の黒紋が大きいこと, 翅鞘外縁部の黒い縁どりははるかに細かいことなどの特徴で容易に区別できる. 筆者が過去に採集しヨツボシテントウと判断していた個体をすべて再検討したが, モンクチビルテントウは含まれていなかった.



図3: シナチクノメイガ♀.



図4: モンクチビルテントウ♀. 高田台産.

引用文献

- 石川 均, 2011. 静岡県初記録のモンクチビルテントウ. 月刊むし, (487): 46.
- 岩下幸平・松井悠樹, 2022. 中国南部からの外来種と考えられるノメイガ *Eumorphobotys eumorphalis* (Caradja, 1925) の日本からの初記録. 蛾類通信, (300): 683-684.
- 松原 豊・上野輝久・佐々治寛之, 1998. 日本未記録のモンマダラテントウ沖縄本島に産する. 月刊むし, (332): 38.
- Matsumoto, R., Miyake, H., Yamazaki, K., Aono, T. and Shimizu, A; 2018. Discovery of a new, adventive, spider wasp, *Lissoctenemesis brevipennism* in Japan (Hymenoptera; Pompilidae; Ctenocerinae). Japanese Journal of Systematic Entomology, 24(1): 95-98.
- 宮野昭彦, 2020. 日本未記録のピンク色のノメイガ. 誘蛾燈, (230): 1-2.
- 大貝秀雄, 2023. 上郡町で近年確認された新参外来昆虫. きべりはむし, 46(2): 32-33.
- 京都府病害虫防除所, 2024. 病害虫発生予察特殊報第 5 号 (シナチクノメイガ).
- 阪上洗多, 2024. ハチ北高原から得られた蛾類 3 種の採集例. きべりはむし, 47(1): 68-69.
- 阪本優介, 2018. テントウムシハンドブック. 文一総合出版, 東京. 88pp.
- 佐々治寛之・谷口昌弘, 2003. 日本新記録のモンクチビルテントウ (改称). 月刊むし, (391): 13.
- 島崎能子・島崎正美, 2021. 兵庫県高砂市でアメリカピンクノメイガを観察. きべりはむし, 44(2): 54.
- 高橋弘樹, 2025. 兵庫県西播磨地域で確認した県初記録及び記録の少ない蛾類について (1). きべりはむし, 48(2): 29-40.
- 宇野宏樹, 2021. 宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年~2020 年の昆虫の記録—. きべりはむし, 44(1): 9-25.
- 宇野宏樹, 2022. 兵庫県西宮市におけるアメリカピンクノメイガの記録. 蛾類通信, (301): 5-6.
- 矢口芽生, 2021. 兵庫県淡路市でアメリカピンクノメイガを確認. きべりはむし, 44(1): 100.

兵庫県丹波篠山市で見られた昆虫類の記録 (その2)

宇野宏樹¹⁾

1. はじめに

筆者は兵庫県丹波篠山市の草野付近において、2010年代から昆虫類の調査を行っており、その一部を宇野(2025)で報告した。その後も筆者は草野付近で昆虫類の調査を継続しているため、その調査結果を本記事にて続報として報告しておきたい。

2. 調査地の環境・調査方法など

宇野(2025)では、調査地の環境などについて執筆していなかったため、本記事にて補足しておく。調査地はJR草野駅付近であり、環境としては、民家の間に田んぼや畑が存在しているほか、山に入ると、針葉樹林および、広葉樹などからなる林が存在している(図1)。昆虫類の調査は、基本的には見つけ採り法で行った。本報告で扱う昆虫類の記録について、前述のとおり調査地はJR草野駅周辺であるが、より具体的には「兵庫県丹波篠山市草野付近(丹波篠山市草野および丹波篠山市油井にまたがったエリア)」である。本報告で扱う昆虫類の記録について、撮影者・採集者および写真・標本の管理者はすべて筆者である。

3. 丹波篠山市草野付近で確認された昆虫類のリスト

丹波篠山市で撮影・採集された昆虫のリストを報告する。なお、基本的な掲載順序は、チョウ類では「フィールドガイド日本のチョウ」、蛾類では「日本産蛾類標準



図1. 調査地の林道(2025年10月29日撮影)。

図鑑I~III」、甲虫類では「原色日本甲虫図鑑II~IV」、半翅目昆虫では「新訂 原色昆虫大図鑑III」及び「日本原色カメムシ図鑑第3巻」、双翅目では「ハエハンドブック」に従った。

・蜻蛉目

アオイトトンボ科

アオイトトンボ属の一種 *Lestes* sp.

1ex. (撮影のみ), 29. X. 2025.

アオイトトンボまたはオオアオイトトンボの仲間と思われるが、写真のみの記録のため、種の断定は保留した。

・蠋螂目

カマキリ科

オオカマキリ *Tenodera sinensis*

1ex. (撮影のみ), 29. X. 2025.

・直翅目

コオロギ科

エンマコオロギ *Teleogryllus emma*

1ex. (撮影のみ), 29. X. 2025.

・鱗翅目

アゲハチョウ科

アゲハ *Papilio xuthus*

1ex. (撮影のみ), 5. V. 2025.

本種はナミアゲハと呼ばれることも多いが、ここでは「フィールドガイド日本のチョウ」に掲載されている和名に従った。

シロチョウ科

モンキチョウ *Colias erate*

1ex. (撮影のみ), 5. V. 2025.

モンシロチョウ *Pieris rapae*

1ex. (撮影のみ), 5. V. 2025.

¹⁾ Hiroki UNO 大阪府池田市

シジミチョウ科

ベニシジミ *Lycaena phlaeas*

1ex. (撮影のみ), 29. IV. 2025.

タテハチョウ科

ツマグロヒヨウモン *Argyreus hyperbius*

1 ♀ (撮影のみ), 5. V. 2025.

ヒメウラナミジャノメ *Ypthima argus*

1ex. (撮影のみ), 29. IV. 2025.

シャクガ科

ツマキエダシャク *Platycerota incertaria*

1ex. (撮影のみ), 29. IV. 2025.

フタナミトビヒメシャク *Pylargosceles steganioides*

1ex. (撮影のみ), 29. IV. 2025.

オビガ科

オビガ *Apha aequalis*

1ex. (撮影のみ), 6. VII. 2024.

シャチホコガ科

ヒメシャチホコ *Stauropus basalus*

1ex. (撮影のみ・図2), 5. V. 2025.

ヒゲナガガ科

クロハネシロヒゲナガ *Nemophora albiantennella*

1ex. (撮影のみ), 5. V. 2025.

・鞘翅目

オサムシ科

セアカヒラタゴミムシ *Dolichus halensis*

1ex. (撮影のみ), 29. X. 2025.

センチコガネ科

オオセンチコガネ *Phelotrupes auratus*

1ex., 29. IV. 2025.

コガネムシ科

クロツツマグソコガネ *Saprosites japonicas*

1ex., 9. IV. 2025.

コメツキムシ科

フタモンウバタマコメツキ *Cryptalaus larvatus*

1ex. (撮影のみ), 29. IV. 2025.

ホタル科

オバボタル *Lucidina biplagiata*

1ex., 5. V. 2025.



図2. 丹波篠山市産ヒメシャチホコ.

ケシクスイ科

キノコヒラタケシクスイ *Physoronia explanata*

1ex., 9. IV. 2025.

キノコムシダマシ科

モンキナガクチキムシ *Penthe japana*

1ex., 5. V. 2025.

ナガクチキムシ科

ヨツボシヒメナガクチキ *Holostrophus lewisi*

1ex., 29. IV. 2025.

アオバナガクチキ *Melandrya gloriosa*

1ex., 5. V. 2025.

ハムシ科

クロボシツツハムシ *Cryptocephalus signaticeps*

1ex., 5. V. 2025.

ヨツモンクロツツハムシ *Cryptocephalus nobilis*

1ex., 29. IV. 2025.

フジハムシ *Gonioctena rubripennis*

1ex., 5. V. 2025.

クロウリハムシ *Aulacophora nigripennis*

1ex., 5. V. 2025.

アトボシハムシ *Paridea angulicollis*

1ex., 9. IV. 2025.

フタホシオオノミハムシ *Pseudodera xanthospila*

2exs., 29. IV. 2025.

オトシブミ科

ヒメクロオトシブミ *Compsapoderus erythrogaster*

1ex., 29. IV. 2025.

・半翅目

ヨコバイ科

ツマグロオオヨコバイ *Bothrogonia ferruginea*

1ex., 29. IV. 2025.

マダラナガカメムシ科

ジウジナガカメムシ属の1種 *Tropidothorax* sp.

1ex., 5. V. 2025.

ホシカメムシ科

フタモンホシカメムシ *Pyrrhocoris sibiricus*

1ex., 5. V. 2025.

カメムシ科

ウズラカメムシ *Aelia fieberi*

1ex., 5. V. 2025.

・双翅目

ガガンボ科

ベッコウガガンボ *Dictenidia pictipennis*

1ex., 5. V. 2025.

ツリアブ科

ビロードツリアブ *Bombylius major*

1ex. (撮影のみ), 29. IV. 2025.

引用文献

- 林 匡夫・森本 桂・木本新作 (編著), 1984. 原色日本
甲虫図鑑 IV. 438pp. 保育社.
- 平嶋義宏・森本 桂 (監修), 2008. 新訂 原色昆虫大圖
鑑 第 III 卷 (トンボ目・カワゲラ目・バッタ目・カ
メムシ目・ハエ目・ハチ目 他). 654pp. 北隆館.
- 広渡 俊哉・那須義次・坂巻 祥孝・岸田泰則 (編),
2013. 日本産蛾類標準図鑑 III. 360pp. 学研教育出版.
- 石川 忠・高井幹夫・安永智秀, 2012. 日本原色カメム
シ図鑑第 3 卷. 573pp. 全国農村教育協会.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 I. 352pp.
学研教育出版.
- 岸田泰則 (編), 2011. 日本産蛾類標準図鑑 II. 416pp.
学研教育出版.
- 日本チョウ類保全協会 (編), 2012. フィールドガイド
日本のチョウ. 327pp. 誠文堂新光社.
- 熊澤辰徳・須黒達巳, 2024. ハエハンドブック.
176pp. 文一総合出版.
- 黒澤良彦・久松定成・佐々治寛之 (編著), 1985. 原色
日本甲虫図鑑 III. 500pp. 保育社.
- 上野俊一・黒澤良彦・佐藤正孝 (編著), 1985. 原色日
本甲虫図鑑 II. 514pp. 保育社.
- 宇野宏樹, 2025. 兵庫県丹波篠山市で見られた昆虫類
の記録. きべりはむし, 48 (1): 120-122.

宝塚市の緑地公園の昆虫についての続報 (その2)

宇野宏樹¹⁾

1. はじめに

筆者は主に2014年以降から宝塚市に存在するゆずり葉台緑地公園及びその周辺で昆虫類の定点調査を行っており、その結果を主に宇野(2019)・宇野(2020a)・宇野(2020b)・宇野(2021a)に報告してきた。また、これらの報告の補遺及び不備は宇野(2021b)・宇野(2022)で報告・修正した。筆者はこれらの報告を出版した後にもゆずり葉台緑地公園及びその周辺で昆虫類の調査を行ったので、本記事にてその結果を「補遺(その2)」として報告しておきたい。

2. 補遺 (その2)

筆者が2025年以降ゆずり葉台緑地公園及びその周辺で確認した昆虫のうち、これまでに本地で記録していなかった種を報告する。また、過去に不明種として記録したが、新たに種同定できたものも併せて報告しておきたい。なお、本報告の調査に用いた写真や標本、フィールドノートは筆者が保管している。本項で報告する昆虫の採集地・撮影地はすべてゆずり葉台緑地公園及びその周辺(宝塚市蔵人及び宝塚市逆瀬台1丁目にまたがったエリア)である。

・鱗翅目

シジミチョウ科

コツバメ *Callophrys ferrea*

1ex (図1・撮影のみ) . 27. IV. 2025. 筆者撮影.
樫が峰登山道付近の林道で1個体を撮影した。



図1. 宝塚市で2025年に撮影されたコツバメ。

ヒゲナガガ科

Adela 属の1種

1ex. (図2・撮影のみ) , 27. IV. 2025. 筆者撮影.
ケブカヒゲナガまたはアトキケブカヒゲナガ、ムモンケブカヒゲナガと思われるが、写真のみの記録のため、種の断定は保留した。本記録は、逆瀬台1丁目で撮影した個体である。

ヤガ科

ナニワクビグロクチバ *Lygephila lilacina*

宇野(2020a)で「*Lygephila* 属の一種」として記録した個体は、佐々木昇氏に標本の写真を送ったところ、2頭ともナニワクビグロクチバであるとお返事いただいた。

・鞘翅目

コガネムシ科

ナミハナムグリ *Cetonia pilifera*

2exs., 3. V. 2025. 筆者採集・保管。

ハムシ科

ユリクビナガハムシ *Lilioceris merdigera*

1ex., 27. IV. 2025. 筆者採集・保管。

ゆずり葉台緑地公園で飛翔していた個体を採集した。

アトボシハムシ *Paridea angulicollis*

1ex., 3. V. 2025. 筆者採集・保管。

ルイスジンガサハムシ *Thlaspida lewisii*

1ex., 3. V. 2025. 筆者採集・保管。



図2. 宝塚市で2025年に撮影されたケブカヒゲナガの仲間。

¹⁾Hiroki UNO 大阪府池田市



図 3. 宝塚市で 2025 年に見つかったアカガネコンボウハバチ.

・膜翅目

コンボウハバチ科

アカガネコンボウハバチ *Abia iridescens*

1ex. (図 3), 3. V. 2025. 筆者採集・保管.

ゆずり葉台緑地公園の近くの林道で 1 個体を採集した.

3. ラクダムシについての知見

宇野 (2021a) で報告したラクダムシについて, ラクダムシは兵庫県版レッドリスト 2022 において「要調査」に指定されており, 生息情報の蓄積が望まれている. 本種の成虫を探すのはやや難しいが, 幼虫はマツの倒木の樹皮をめくることが, 腕くらいの太さの枯死した樹木のビーティングを行うことなどで, 比較的狙って探ることが可能である. 本種については, 幼虫の探索が生息地の把握の近道となるかもしれない.

4. 謝辞

末筆ながら, 本報告を執筆するにあたって, ナニワクビグロクチバを同定していただいた佐々木昇氏に厚くお礼申し上げる.

引用文献

宇野宏樹, 2019. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I. きべりはむし, 42(2): 32-39.
 宇野宏樹, 2020a. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 II. きべりはむし, 43(1): 18-28.
 宇野宏樹, 2020b. 宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 III. きべりはむし, 43(2): 21-25.
 宇野宏樹, 2021a. 宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年~2020 年の昆虫の記録—. きべりはむし, 44(1): 9-25.
 宇野宏樹, 2021b. 「宝塚市の緑地公園で得られた蛾類の記録 I・II・III」及び「宝塚市の緑地公園の昆虫相—2010 年~2020 年の昆虫の記録—」の再検討 (補遺及び訂正点・正誤表). きべりはむし, 44(2): 39-43.
 宇野宏樹, 2022. 宝塚市の緑地公園の昆虫についての続報及び追加訂正. きべりはむし, 45(1): 95-96.

【訂正】宝塚市の緑地公園の昆虫類の報告 5 編について追加する正誤表

宇野宏樹

宇野 (2019) の訂正箇所

ページ	段	項	訂正
p.33	右段	コスジシロエダシヤク	<i>Scopula</i> 属の一種
p.37	右段	ウスキツバメエダシヤク	<i>Ourapteryx</i> 属の一種

宇野 (2020a) の訂正箇所

ページ	段	項	訂正
p.24	右段	ソトムラサキコヤガ	<i>Maliattha</i> 属の一種

宇野 (2020b) の訂正箇所

ページ	段	項	誤	正
p.23	右段	図 2 (キャプション)	シロクロフノメイガ	シロフクロフノメイガ

宇野 (2021a) の訂正箇所

ページ	段	項	訂正
p.13	右段	<i>Aneurus</i> 属の一種	<i>Aneurus</i> 属または <i>Paraneurus</i> 属の一種
p.15	左段	タイショウオオキノコ	<i>Episcapha</i> 属の一種
p.16	右段	アトボシアオゴミムシ	ムナビロアトボシアオゴミムシ
p.18	右段	コジマヒゲナガコバネカミキリ	ヒゲナガコバネカミキリ族の一種
p.19	左段	アオカミキリモドキ	<i>Nacerdes</i> 属の一種 (a)
p.19	左段	キバネカミキリモドキ	<i>Nacerdes</i> 属の一種 (b)
p.21	左段	ヒメカメノコテントウ	<i>Propylea</i> 属の一種
p.23	右段	<i>Xylomya</i> 属の一種	<i>Xylomya</i> 属または <i>Solva</i> 属の一種

宇野 (2021b) の訂正箇所

ページ	段	項	誤	正
p.41	右段	ミツモンキンウワバをイチヂクキンウワバに訂正	1ex., 31. VIII. 2014.	1ex, 15. IX. 2014

神戸市摩耶山における 2025 年度のアサギマダラの移動調査の結果

宮武頼夫¹⁾・一井弘行²⁾・徳増実事²⁾

はじめに

摩耶山天上寺は、神戸市灘区摩耶山町 2-12 にあり (標高 715m)、大化 2 年 (646 年) にインドの高僧法道仙人により創設されたと言われる古刹で、神仏霊場兵庫第四番に指定されている。関西花の寺第 10 番霊場にも指定されているだけあって、境内や周辺に各種の花が植えられており、コバノフジバカマも各所にパッチ状に植えられていて、秋のアサギマダラ *Parantica nipponica* の南下シーズンには、多くの個体が見られる格好のマーキングポイントとなっている。

2025 年 10 月 9 日 (木)、午前 10 時から午後 2 時 20 分の間、我々は天上寺下周辺のコバノフジバカマ園 (標高 690m) でアサギマダラの移動調査を行った (図 1)。当日は、アサギマダラは一昨年に比べるとやや少なく (昨年は行ってない)、一カ所でマークしていると、マーク個体ばかりになるという状態だった (図 2, 図 3)。我々が当日マークしたのは以下の通りで、総数は 324 個体 (一昨年は 490 個体) であった。当日の天候は晴で、気温はおおむね 21℃から 25℃を推移し、時々風があった。

一井弘行 HCH1 -HCH103 MY 10.9

99 ♂ 4 ♀ (交尾不明)

徳増実事 TKM1 -TKM160 MY 10.9

155 ♂ 5 ♀ (すべて交尾済み)



図 1. マーキング風景 (一井撮影)。

宮武頼夫 YMK1 -YMK61 MY 10.9

60 ♂ 1 ♀ (交尾済み)

摩耶山: 神戸市灘区摩耶山町天上寺下のコバノフジバカマ園

標高 690m N34° 44' 20" E135° 12' 16"

asagi の ML で再捕獲情報や移動情報を寄せてくださった方々には、厚くお礼を申し上げます。

他地からの再捕獲の記録 (他地からの移動記録)

1. 標識: TGV 8.5 OSM 278 (図 4)

標識日: 2025 年 8 月 5 日 12:05 晴 28℃

標識地: 群馬県嬬恋村棧敷林道 36.435034N, 138.427607E
(標高 1650m)

性別・鮮度・前翅長: ♂・N・49 mm

訪花植物: 自生のヨツバヒヨドリ

標識者: 大島康紀

↓ 南西方向へ 347.12 km 移動 65 日間

再捕獲日: 2025 年 10 月 9 日 14:13

再捕獲地: **摩耶山**

性別・鮮度: ♂・O 破損あり

再捕獲者: 徳増実事

報告者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマ訪花. 追記「TKM 155 MY 10.9」. 写真あり



図 2. 多くのアサギマダラが集まるポイント (徳増撮影)。



図 3. 標識された個体 (徳増撮影)。

¹⁾ Yorio MIYATAKE アサギマダラの会; ²⁾ Hiroyuki ICHII・Makoto TOKUMASU トンボ研究会

*夏の高原に調査に入り初日の個体。標識地でも28℃, 移動日数が長いのは逗留期間が長かったと思われる。

他地での再捕獲の記録 (他地への移動記録)

1. 標識: HCH76 MY 10.9 (図5)

標識日: 2025年10月9日 12:17 晴 23.0℃

標識地: 摩耶山

性別・鮮度・前翅長: ♂・M 破損なし・52mm

標識者: 一井弘行

報告者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマ訪花

↓南南西へ約147km移動 25日間

撮影日: 2025年11月3日

撮影地: 徳島県海部郡海陽町鱒瀬 N33°38'54" E134°23'19"

性別: ♂

撮影者: 有田忠弘

報告者: 大原賢二

備考: 撮影のみ, 追記せず

2. 標識: TKM 50 MY 10.9

標識日: 2025年10月9日 11:01 晴 23℃

標識地: 摩耶山

性別・鮮度・前翅長: ♂・O 破損あり・56mm

標識者: 徳増実事

報告者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマ訪花

↓南西方向へ約40km移動 4日間

撮影日: 2025年10月13日 13:30~14:30 晴 約26℃

撮影場所: 兵庫県南あわじ市灘黒岩 論鶴羽神社 フジバカマ園 34.2305N, 134.8152E (標高510m)

性別: ♂

撮影者: 木下智晴

備考: フジバカマ訪花. 追記なし.

3. 標識: TKM 88 MY 10.9

標識日: 2025年10月9日 12:06 晴 22℃

標識地: 摩耶山

性別・鮮度・前翅長: ♂・M 破損なし・56mm

標識者: 徳増実事

報告者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマ訪花

↓南南西へ約105km移動 15日間

再捕獲日: 2025年10月24日 15:30

再捕獲地: 徳島県阿南市椿町須屋奥 牧場東 N33°48'47" E134°40'52"

性別: ♂

再捕獲者: 米山喜義

報告者: 大原賢二

備考: 追記「トクスヤ 10.24 kys 114」

4. 標識: TKM 102 MY 10.9 (図6)

標識日: 2025年10月9日 12:24 晴 25.5℃

標識地: 摩耶山

性別・鮮度・前翅長: ♂・M 破損あり・56mm

標識者: 徳増実事

報告者: 宮武頼夫

備考: コバノフジバカマ訪花

↓北東へ約71km移動 15日間

再捕獲日: 2025年10月24日 10:47 曇 18℃ 北西の風

再捕獲地: 京都市左京区大原勝林院町 N35°7'18" E135°49'47" (標高228m)

性別・鮮度: ♂・M

再捕獲者: 小松清弘

報告者: 藤野適宏

備考: 植栽コバノフジバカマに飛来. 追記「KK-400H10/24」
画像有

5. 標識: TKM 114 MY 10.9

標識日: 2025年10月9日 12:50 晴 25.5℃

標識地: 摩耶山



図4. TGV 8.5 OSM278 (群馬県から, 徳増撮影).



図5. HCH76 (徳島県へ, 有田撮影).

性別・鮮度・前翅長：♂・O 破損あり・50mm
 標識者：徳増実事
 報告者：宮武頼夫
 備考：コバノフジバカマ訪花

↓東北東方向へ約 15km 移動 5日間

再捕獲日：2025年10月14日 14:37
 再捕獲地：兵庫県宝塚市南口2丁目（武庫川右岸沿い）N34°
 48' 15.94" E135° 21' 03.26"（標高 30m）
 性別・前翅長：♂・50mm
 再捕獲者：渡辺康之
 備考：スレと色あせがある個体。ミズヒマワリ群落に飛来。
 追記「YWA 884 M 10.14」

6. 標識：TKM 157 MY 10.9 (図7)

標識日時：2025年10月9日 14:16 晴 22.3℃
 標識地：摩耶山
 性別・鮮度・前翅長：♂・M 破損なし・59mm
 標識者：徳増実事
 報告者：宮武頼夫
 備考：コバノフジバカマ訪花

↓南南西へ約 870km 移動 28日間

再捕獲日時：2025年11月6日 14:11
 再捕獲場所：鹿児島県大島郡喜界町 滝川林道 N28° 18'
 43.92" E129° 58' 21.10"
 性別・鮮度：♂・M

再捕獲者：福島誠
 備考：シロノセンダングサ訪花, 追記「キカイ MF 183 11/6 T」.
 画像あり

7. 標識：YMK 7 MY 10.9 (図8)

標識日時：2025年10月9日 10:20 晴 23.5℃
 標識地：摩耶山
 性別・鮮度：♂・M 破損なし
 標識者：宮武頼夫
 備考：コバノフジバカマ訪花

↓南南西へ 190km 移動 41日間

再捕獲日時：2025年11月21日 14:15 晴 18℃
 再捕獲地：高知県室戸市室戸岬町室戸スカイライン N33°
 16' 03" E134° 10' 43"
 性別・鮮度：♂・O
 再捕獲者：藤野適宏
 備考：ツツブキ群落に飛来。追記「MA601 ムロト 11.21」.
 画像有

8. 標識：YMK 16 MY 10.9 (図9)

標識日時：2025年10月9日 10:42 晴 23.5℃
 標識地：摩耶山
 性別・鮮度：♂・N 破損なし
 標識者：宮武頼夫
 備考：コバノフジバカマ訪花



図6. TKM 102 (京都市へ, 藤野撮影).



図7. TKM 157(喜界島へ, 福島撮影).



図8. YMK 7 (室戸岬へ, 藤野撮影).



図9. YMK 16 (淡路島へ, Bando 撮影).

↓南西へ約 70km (不定) 移動 16 日間

再撮影日時: 2025 年 10 月 25 日 10:51

再撮影地: 淡路島

再撮影者: Hideaki Bando

報告者: 松田元気

備考: 写真からコバノフジバカマで吸蜜中と思われる.



図 10. カマキリに捕食されたアサギマダラ (徳増撮影).

カマキリによる捕食の観察

徳増は午前 11 時 42 分ころ, コバノフジバカマの花の直下で, 1 頭のアサギマダラを捕まえているカマキリを見つけた (図 10). カマキリの種名ははっきりとは分からなかったが, あまり大きくはなかったので, ヒメカマキリだったのではないと思われる. 写真を撮ろうと近づくと, カマキリは一旦アサギマダラを放したが, アサギマダラは動くことがなかったので, 既に死亡している状態だったのではないと思われる. カマキリの捕食の初期の段階であったと思われるが, その後の推移は観察していない.

考察

例年と比べると, 他地からの移動個体の再捕獲数が非常に少なく, わずか 1 例のみであった. 全国的にまだ南下移動が始まったばかりだったのかもしれない. 他地への移動はそこそこあったが, マーキング後に北東と東北東方向へそれぞれ 1 頭ずつ移動した例があった. 高温が続いた事が影響したと推定される.

参考文献

- 宮武頼夫・一井弘行・徳増実事, 2021. 神戸市摩耶山における 2020 年度のアサギマダラ標識個体の移動結果. きべりはむし, 44 (1): 58 - 61.
- 宮武頼夫・一井弘行・徳増実事, 2022. 神戸市摩耶山における 2021 年度のアサギマダラ標識個体の移動結果. きべりはむし, 45 (2): 26 - 33.
- 宮武頼夫・一井弘行・徳増実事, 2023. 神戸市摩耶山における 2022 年度のアサギマダラ標識個体の移動結果. きべりはむし, 46 (1): 28 - 33.
- 宮武頼夫・一井弘行・徳増実事, 2024. 神戸市摩耶山における 2023 年度のアサギマダラ標識個体の移動結果. きべりはむし, 47 (2): 61 - 65.

Google フォームを用いたシタベニハゴロモの日本国内における分布調査

菅藤康平¹⁾

1. はじめに

筆者は2024年に、兵庫県立大学附属高等学校周辺においてシタベニハゴロモ *Lycorma delicatula* (White, 1845) の生息状況調査を実施し、その結果を報告した(菅藤, 2024)。その後、日本国内における本種の分布の実態を把握するため、Google フォームを用いた広域的な情報収集を試みた。2025年12月31日までに、日本国内から計38件の情報が寄せられた。本稿では、これらの提供記録に基づき、本種の現在の分布状況を報告するとともに、今後の拡散傾向について考察を行う。

2. 方法

情報の収集方法

菅藤(2024)の末尾および佐用町昆虫館オフィシャルブログに情報提供を呼びかける記事を掲載し、Google フォームを用いた入力フォームへのリンクを設置した。また、不特定多数からの情報を広く募るため、Xを中心としたSNS等を通じても周知を行った。

本フォームにおける主な設問項目は以下の通りである。

- 目撃・採集地点(市区町村, 詳細な場所)
- 確認日
- 発育段階(卵, 幼虫, 成虫の別)
- 寄主植物および周辺環境(発見場所の詳細)
- 個体数および成虫の後翅の色彩
- 雌雄の別(成虫の場合)
- 状況(生存, 死骸, 飛来など)
- 写真(任意, 同定等の妥当性を確認するため)

データの整理

寄せられた情報はGoogle スプレッドシートを用いてデータベース化し、管理・分析を行った。

3. 結果

Google フォームを通じて寄せられた記録から、シタベニハゴロモの分布は石川県, 富山県, 福井県, 岐阜県, 愛知県, 大阪府, 兵庫県の計7府県で確認された。

本調査によって寄せられた全記録(表1), 都道府県別の集計結果(表2), 雌雄別後翅の色を記録(表3), 添付された写真(図1-21)をそれぞれ示した。なお、誌面の都合および一覧性を高めるため、表中の項目名については一部簡略化した表記を用いている。また、情報が寄せられた都道府県を視覚的に分かりやすくするため、マップを示した(図22)。

特筆すべき点として、地域間での個体の色彩変異が挙げられる。北陸および中部地方から報告された個体は、後翅の赤色以外の部分が白色(クリーム色)を呈するものが大半であった。それに対し、兵庫県から報告された個体では、同部位が青みを帯びた淡水色を呈するものが多く見られた。

これまでの本種の遺伝子型に関する研究から、日本国内への侵入ルートが複数存在することが指摘されており、北陸の個体群は中国北西部と同一のグループである一方、岡山県の個体群は中国の中央部や韓国, アメリカに侵入・定着しているものと同一のグループであることが判明している(倉敷昆虫館, 2024)。後者のグループは、侵入先である韓国やアメリカにおいて爆発的な繁殖と深刻な農業被害をもたらしている型であることから、兵庫県周辺における今後の分布拡大および被害の動向については、より一層の注意深い観察が必要である。

本調査によって得られた情報は現時点で38件に留まっているが、本種の急速な分布拡大を鑑みれば、今後も継続的な情報収集が不可欠である。筆者は引き続きデータの蓄積に努めるとともに、日本国内における本種の動向を注視していきたい。

5. 謝辞

本調査の実施にあたり、貴重な情報をお寄せいただいた皆様に厚く御礼申し上げます。

¹⁾ Kohei KANTO 岡山理科大学

表 1. Google フォームに寄せられた全記録

No.	場所	月日	齢期	確認環境	個体数	後翅の色	雌雄	写真	状況
1	石川県かほく市	4月~11月	不明	不明	多数	不明	不明		家の周りの雨が直接当たらない所。家の周りにいっぱいいます。
2	兵庫県姫路市本町	不詳	不明	側溝	1匹	不明	不明		畑の横の、コンクリート通路に転がっていた。
3	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/05/08	幼虫	ノグルミ	1匹	不明	不明	図1	幼虫 筆者確認
4	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/06/19	幼虫	カラスザンショウ	1匹	不明	不明		カラスザンショウにいました
5	富山県富山市五福 呉羽丘陵	2025/07/02	幼虫	ニワウルシ	多数	不明	不明	図2	シンジュの葉柄や幹にたかっていた。たかれた部分が黄色く萎凋していることもあった。白黒の幼虫と赤い幼虫が混在していたが、白黒の方が多かった。また、摂食しているかはよくわからなかったが、クスなど他の植物にもある程度多くついていた。丘陵の下の方はかなり多かったが上の方は少なかった。大量に採集し、冷凍殺虫した。
6	岐阜県揖斐郡池田町宮地地区	2025/07/16	成虫	不明	1匹	不明	不明	図3	仕事でふと壁を見たら見たことない綺麗な虫がいたので写真撮りました。
7	岐阜県笠松市	2025/09/07	成虫	不明	多数	不明	不明		枯れた植物の細枝に集まっていた。
8	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/07/23	幼虫	ガードレール	1匹	不明	不明		ガードレールに静止。
9	岐阜県岐阜市五坪	2025/07/29	成虫	建物	1匹	白	♀	図4	アパート4階の玄関に飛来していました。発見時は深夜ですが、弱っていたため夜間の飛来か昼間の飛来かは不明です。
10	岐阜県不破郡関ヶ原町関ヶ原	2025/8/11	成虫	不明	1匹	不明	不明	図5	コンクリートの上を跳ねていた。
11	岐阜県高山市上岡本町	2025/8/16	成虫	不明	3~5匹	不明	不明	図6	裏が山で飛んできています。どこに寄主しているのかわかりません。8月に入ってから1日に3~5匹は見かけます。
12	富山県中新川郡上市町護摩堂 弘法大師の清水の採水地付近	2025/8/17	成虫	不明	1匹	白	不明	図7	付近で農業は行われていない林間(数km圏内にブドウ、リンゴ畑あり)。コンクリート壁面に翅を閉じずに止まっていた。見慣れない虫なので後で調べようと撮影。駆除せず。問題視されている外来種とわかったのでこちらに投稿。
13	兵庫県赤穂市 JR 播州赤穂駅前	2025/8/20	成虫	不明	1匹	白	♀		駅で死骸を拾った。筆者確認。
14	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/8/21	成虫	カラスザンショウ	1匹	青	♀	図8	カラスザンショウに静止。筆者確認
15	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/8/21	成虫	カラスザンショウ	3匹	不明	不明		カラスザンショウに静止。筆者確認
16	大阪府八尾市西木の本1丁目	2025/8/8	成虫	建物	1匹	不明	不明	図9	3階の階段の壁にとまてました。
17	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/8/25	成虫	カラスザンショウ	1匹	青	♂		カラスザンショウに静止。筆者確認
18	兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	2025/8/25	成虫	カラスザンショウ	1匹	青	♀		カラスザンショウに静止。筆者確認
19	富山県滑川市	2025/8/26	成虫	ブルーベリー	1匹	不明	不明	図10	枝につかまってもそもそと動いていました。
20	愛知県犬山市	2025/9/5	成虫	建物	1匹	白	♂	図11	仕事中に飛んでるのを見かけ、休憩時に事務所付近で死んでる個体を発見。珍しい虫かなと思い調べました。
21	兵庫県姫路市本町 68 淳心学院校内	2025/9/7	成虫	建物	1匹	不明	不明		食堂の中を元気に飛び回っていましたので、捕獲しました。
22	愛知県北名古屋	2025/9/11	成虫	建物	1匹	白	♀		玄関先にポツンといました。
23	兵庫県姫路市土山	2025/9/11	成虫	建物	1匹	青	♀	図12	家の前のコンクリートにいました。あまり元気はありませんでした。
24	兵庫県宍粟市山崎町	2025/9/11	成虫	不明	1匹	不明	不明		山裾の住宅付近。
25	岐阜県揖斐郡池田町	2025/9/22	成虫	不明	1匹	不明	不明	図13	職場の建物のちかくに1匹で飛んできた。
26	岐阜県揖斐郡池田町	2025/9/28	成虫	不明	1匹	不明	不明	図14	コンクリートの上を歩いてた。
27	愛知県一宮市	2025/10/6	成虫	不明	1匹	不明	不明	図15	公園の石段にいました。地味そうに見えて、飛ぶと内側の羽が赤くて綺麗でした。流行りのインナーカラー？おしやれな子ですね！
28	自宅敷地内(詳細不明)	2025/10/3	成虫	不明	1匹	白	♂	図16	バケツに入れた水の中であがっていました。
29	岐阜県岐阜市	2025/10/9	成虫	不明	1匹	不明	♂	図17	玄関で死んでいました。
30	兵庫県佐用町上秋里	2025/9/8	成虫	ニワウルシ	多数	青	不明		道路沿いのニワウルシに、多数が見られた。
31	兵庫県佐用町船越	2025/10/11	成虫	不明	1匹	青	不明		昆虫館のハッピーガーデンで、来館者が採集。
32	石川県内	2025/9/19	成虫	不明	不明	不明	不明		昆虫館のInstagramに、閲覧者より投稿
33	愛知県北名古屋北野五反畑92	2025/10/8	成虫	不明	1匹	青	♂		めだかの水槽に浮きました。
34	福井県大野市 荒島岳 勝原コース途中	2025/10/18	成虫	不明	1匹	不明	不明	図18	登山道に転がっている大きめ岩の上にいました。接近した際に飛翔しました。
35	富山県高岡市 古城公園	2025/10/25	成虫	不明	1匹	不明	不明	図19	ヨコツナサシガメに捕食されていた。
36	福井県芦原市	2025/11/4	成虫	不明	1匹	白	♀	図20	堤防を散歩中にコンクリート上で発見。
37	兵庫県朝来市	不詳	成虫	不明	1匹	不明	不明		筆者が学校の同級生より口頭で確認。
38	大阪市立長居植物園	2025/11/15	成虫	不明	1匹	不明	不明	図21	枯れかけた草に登ったりしていました。

表 2. 都道府県別の報告数

都道府県	報告数	詳細地域
石川県	2	かほく市、詳細不明
富山県	4	富山市、高岡市
岐阜県	8	揖斐郡池田町×3、笠松市、岐阜市×2、不破郡関ヶ原町、高山市
愛知県	4	犬山市、北名古屋×2、一宮市
福井県	2	大野市×1、あわら市×1
大阪府	2	八尾市×1、長居植物園×1
兵庫県	15	姫路市×3、赤穂郡上郡町光都×7、赤穂市、宍粟市、佐用町×2、朝来市×1
場所不明	1	
合計	38	

表 3. 雌雄別後翅の色の記録

観察地	性別	後翅の色
岐阜県岐阜市五坪	♀	白色
富山県中新川郡上市町護摩堂	不明	白色
兵庫県赤穂市 JR 播州赤穂駅前	♂	白色
兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	♀	青色
兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	♂	青色
兵庫県赤穂郡上郡町光都3丁目	♀	青色
愛知県犬山市	♂	白色
愛知県北名古屋	♀	白色
兵庫県姫路市土山	♀	青色
自宅敷地内(詳細不明)	♂	白色
兵庫県佐用町上秋里	不明	青色
兵庫県佐用町船越	不明	青色
愛知県北名古屋北野五反畑92	♂	青色
福井県芦原市	♀	白色

6. 引用文献

菅藤康平, 2024. 兵庫県立大学附属高等学校付近で確認されたシタバニハゴロモの記録と行動観察当地での観察から得られた生態に関する知見. きべりはむし, 47 (2) : 57-59.

倉敷昆虫館, 2024. 標本の紹介 シタバニハゴロモ. https://www.shigei.or.jp/ento_museum/hyouhon_shitabenihaigoromo01.htm (2025年12月21日閲覧)



図 1.



図 2.



図 3.

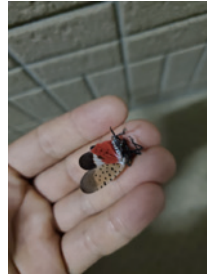


図 4.



図 5.



図 6.



図 7.



図 8.



図 9.

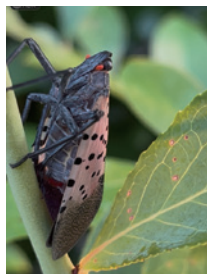


図 10.



図 11.



図 12.

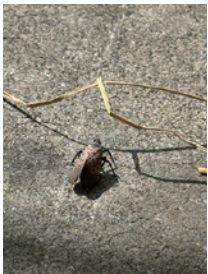


図 13.



図 14.



図 15.



図 16.



図 17.



図 18.

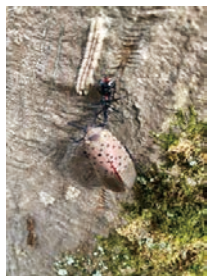


図 19.



図 20.



図 21.



図 22. 表 2 に基づく本種の情報収集状況.

兵庫県三木市内で確認したホシミスジ幼虫の食餌状態からの帰巣行動

立岩幸雄¹⁾・今井勝彦¹⁾

2025年11月11日、兵庫県三木市内の休耕畑の明るい草地でホシミスジ *Neptis pryri* の若齢幼虫（3 齢幼虫）がユキヤナギ *Spiraea thunbergii* の葉を食しているところへ不意に接近した筆者達に気が付き、食餌を中断、自身の巣に戻るまでの一連の行動を確認・撮影した。福田ほか（1983）では「本種の幼虫は葉の先端部を袋状に綴って巣を造り、その中に入る。…幼虫はときどき巣から出て葉を食べる」と記述されているが、今回の観察はこの記述を裏付けるとともに、時間的な経緯を加える形で報告する。

観察日時：2025年11月11日 12:00～12:20

観察地：兵庫県三木市別所町這田

観察地の状況

加古川河岸段丘の上部に広がる平坦地、休耕畑の一角にある明るい草地に生えるユキヤナギの株である（図1）。ユキヤナギ自体、植栽されたものか、種子が飛来し発生・成長したかは不明だが、近傍に民家がないこと

から後者であると思われる。観察した葉および幼虫・巣は地上高 113cm であった。

幼虫・巣の発見

本種の独特な巣の形状を頼りに今井がユキヤナギを探したところ、わずか数分で巣を発見（図2）。併せて隣の葉を食している若齢幼虫を発見した。なお毎年5月後半、このユキヤナギの周りを多数のホシミスジ成虫が活動していることもあって、本種の幼虫を探すには最適のユキヤナギである認識のもと調査に至った。幼虫発見の連絡を受けた立岩はすぐ観察・撮影を開始し、食餌中断から帰巣するまでの一連の行動を記録した。幼虫の行動が見られたユキヤナギの枝葉の概略図および一連の行動写真を時間の経過を加え以下に示す（図3-4）。

幼虫の体長：約 5 mm

幼虫の移動距離：約 69 mm（葉A：30 mm・枝：7 mm・葉B：32 mm）

帰巣時間：290 秒（4分50秒）

移動速度：0.23 mm / 秒



図1. ユキヤナギの株の全景(最大高約1.8m).



図2. 中央やや左に巣が見える.

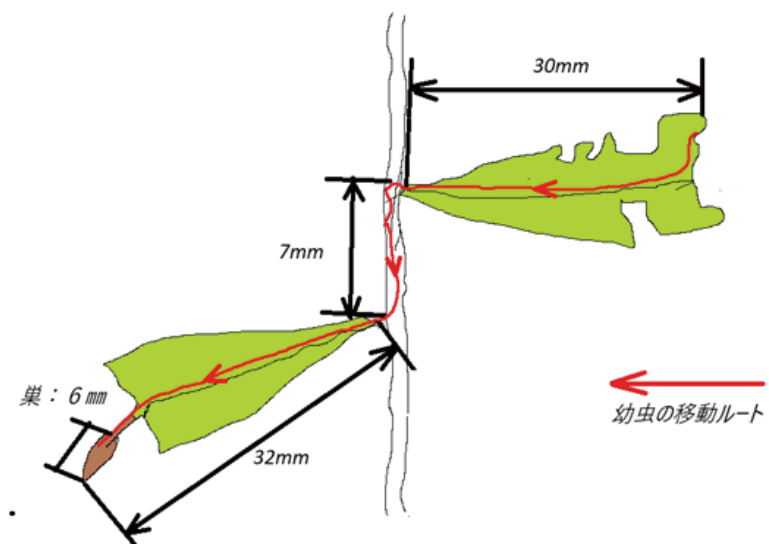


図3. ホシミスジ幼虫が帰巣したユキヤナギの枝葉の模式図.

¹⁾ Yukio TATEIWA・Katsuhiko IMAI 加古川の里山・ギフチョウ・ネット



図 4. ホシミスジ幼虫の一連の行動.

考察

観察結果から導き出した幼虫の移動速度 = 0.23 mm / 秒について、数値だけ見ればのろのろと遅いように感じるかもしれないが、実際の観察において、葉の上を直線状に移動する際には撮影時のピント合わせの時間が充分取れないほど素早い動きであった。また帰巢行動に当たって、食餌していた葉を移動する際、葉の付根の部分を舐めるように巻き付き、自分の巣のある葉への道をしっかり確認しているように感じられた。正確に自分の巣に戻るために何かの“道しるべ”を付着させているか、あるいは、糸を吐いて、これを“道しるべ”にしている可能性も感じた。今回の一連の行動について、時間的に短くかつ対象物が小さいこともあり、通常なら見逃されてしまう行動であるが、じっくり観察してみると、本種の幼虫期において、食餌状態からの緊急避難とも思える帰巢がいかんして成立しているかの一端が垣間見えて興味深い観察結果となった。

引用文献

- 福田晴夫・浜 栄一・葛谷 健・高橋 昭・高橋真弓・田中 蕃・田中 洋・若林守男・渡辺康之, 1983. 原色日本蝶類生態図鑑 (II). 325pp. 保育社
- 広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 332pp. 岩峰社

兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録 -2025

島崎正美¹⁾・島崎能子¹⁾

アサギマダラが、気候の変化に対応して世代が変わっても毎年同じように北上・南下と長距離移動を繰り返す習性とは違って、偶発的な発生をするクロマダラソテツシジミ（以下本種）については、発生の経緯や広範囲移動の実態がほとんどわかっていないと思われる。

2008年10月に加古川市志方中学校校庭のソテツ新芽で本種の大発生があった。数日後に高砂市でも観察でき、志方中学校からの飛来個体だと推定したが、その後高砂市内でも同時期に半径約1km範囲に点在する7か所の新芽があるソテツで3世代までの発生を確認した。次いで2020年9-12月に2008年とほぼ同じ場所のソテツ群で2回目の発生がみられた（島崎・島崎, 2021）。

2021年10月25日には松波町自宅玄関先のヒメツルソバで吸蜜する後翅を破損した♀を確認したが、2021年はこの個体以外には観察できていない。2023年9-12月に2020年より広範囲となる4回目の発生があったが確認できたのは3世代までで（島崎・島崎, 2024）4回ともに越冬できた形跡はなく、偶発的発生に関与した♀がどこから飛来したのかも確認できていない。

筆者らは2025年10月に、高砂市で2008年以降5回目となる本種の発生を確認しており、5件の観察事例を含めて報告する。

2025年10月13日の午前11時過ぎ、加古川河川敷（高砂市米田町）の草むらで、多数頭のヤマトシジミ



図1. 加古川河川敷で♂を観察。(2025年10月13日)

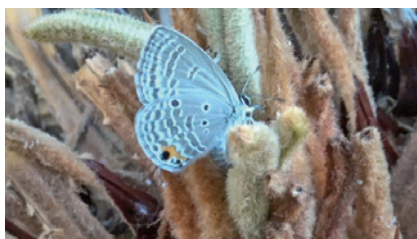


図2. 萌芽への産卵；松波町。(2025年10月14日)



図3. 発芽のない部分に産卵；松波町。(2025年10月19日)



図4. 羽化後間もない新鮮♂；松波町。



図5. 羽化直後で翅が固まっていない♀；松波町。



図6. 羽化後間もない♀；松波町。(2025年11月14日)



図7. 綿毛を摂食中の幼虫；神戸市相楽園。(2020年10月25日)



図8. ヒメツルソバで吸蜜；松波町。(2025年11月10日)

¹⁾ Masami SHIMAZAKI・Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

に混じってセンダングサ周りを飛ぶ、後翅を破損した本種の♂を確認した(図1)。当日の17時過ぎに2023年に高砂市での発生源となった松波町高齢者介護施設のソテツ群(上記河川敷から西南直線距離約2km)を調べると、数本しかないソテツの新芽に多数頭の終令幼虫が確認でき、9月半ば頃に飛来した♀がソテツに産卵したと推定されたが、河川敷で観察した個体がこの場所からの移動個体かどうかはわからない。翌日の日中にはソテツ周りを活発に飛び交う6♂2♀が観察でき、萌芽に産卵をする♀もみられた(図2)。

2023年に本種が発生した半径約1kmの範囲にあるソテツ群を調べた結果、10月17日に今回の発生地から東南約800mの位置にある高砂中学校校庭のソテツ周りを飛ぶ2♂をみたが♀は観察できなかった。若葉は2本だけで幼虫はいなく、以降この場所では成虫もみられなくなった。西南約1kmの位置の西畑4丁目のソテツには10月17日時点で50cmほどに伸びた新芽が2株あり、10月23日にどこからか飛来した♀が産卵する場面を観察した。

2020年、2023年に本種が発生した高砂高校、高砂南高校正門、市の池墓地公園などのソテツでは、今回新芽が確認されず、本種の発生もなかった。ソテツの新芽の有無が本種を誘引する重要要素だと推定できる。

今回、本種に関する観察事例は以下の5項目。

- 1) ソテツの新芽がない時期に、莖葉を切られたソテツの根元部分に残る太くて固い莖表面や、新芽が出てはいない綿毛から突き出ているトゲ状部分に♀が産卵
- 2) ソテツに新たな新芽の生育がみられない期間中に、初令幼虫から成虫したと考えられる3世代目以降の成虫が発生
- 3) ソテツから数メートル離れた場所で蛹化していたと推定できる羽化個体を観察
- 4) ヤマトシジミの♂による本種の♀に対する誤求愛
- 5) 強く吹く風に逆らっても移動できる飛翔力の確認

1) 10月19日に産卵中の♀を観察した(図3)。周辺に新芽が萌芽すると予測しての産卵だと考えられたが、その後2週間以上経過しても新芽の萌芽はなく、幼虫の姿も確認できていない。

2) に関する観察事例-1

10月23日に確認した幼虫が2世代目の成虫となって活動した後、ソテツに新芽が出ない期間が続いたにも関わらず、11月6日に新鮮な♂(図4)、11月7日に羽化直後の♀、11月14日にも羽化直後の♀(図5)と羽化後間もない♀(図6)を観察した。これらの新鮮個体が他の場所から飛来した可能性は低く、幼虫が初令時から固い葉を摂食して成虫したとも考えにくい。柔らか

かい葉はなく、固い葉が摂食できない初令幼虫がどのようにして成虫できたのか。それは「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」のメンバーである大畑俊雄氏に提供していただいた情報：ソテツの中心部で綿毛を摂食して成虫する幼虫の観察記録(図7)で納得できる。終令近い幼虫の記録だが、新芽がない時期にここまで成虫できたのは初令時から綿毛を摂食して育ったと説明できる貴重な記録である。図7の左上には孵化前の卵も確認できるが、継続観察はできていない。

2) に関する観察事例-2

西畑4丁目のソテツの新芽への産卵は18個で、多くが変形した無精卵であった。無精卵と断定できない若葉についた卵3個を持ち帰ったところ、孵化個体は1卵だけであった。葉がまだ柔らかかったこともあってそのまま飼育したところ、初令段階から若葉が固くなるまで摂食し、3令以降は葉が変色して固くなっても摂食を続けた。終令段階で変色した葉を新しい固い葉と綿毛へと交換すると、すぐに綿毛へと潜り込んで固い葉を摂食することなく、産卵から1か月後の11月24日に綿毛内で蛹化した。初令時に新芽がある場合に比べて約1週間余計に日数を要したことになる。過去4回の高砂市での12月以降の継代発生は冬場の低温期で途絶えており、11月24日の蛹化個体が羽化しても以降の継続発生は難しいと考えられる。

2)-1, 2に示した観察事例より、本種は新芽がない時期でも、幼虫が初令時に綿毛または固くなるまでの葉を摂食して成虫できると考えられる。また1)の観察事例についても気づかないうちに綿毛で成虫した可能性がある。

3) 11月7日に確認した羽化直後の♀はソテツから2mほど離れたツゲの繁みから這い上がってくる場面から観察でき、11月14日に観察した羽化直後の♀はソテツから3m以上離れたツゲの植え込みを囲う保護壁の平坦部分に開翅状態で静止(図5)していた。その撮影中、翅が固まっていない状態で静止場所から動いて植え込みの繁みに落ち込み、陽射しが届く枝葉部分へと上がり出るのに苦労するなど、動きは弱々しかった。左前翅にすでに擦り傷がみられはするが羽化後に長い距離を移動したとは考えにくい。過去の4回の発生時に発見できた蛹は、高砂高校正門のソテツから離れた外壁表面への帯蛹を除き、ソテツの固い葉の表・裏への帯蛹、あるいは綿毛の中など、すべてソテツまわりで蛹化していた(島崎・島崎, 2021)。しかし上記の羽化観察個体はすべてソテツから数メートル離れたツゲの繁みの中だと推定される。

4) 11月6日、ソテツの根元近くでヤマトシジミの♂が尾端を曲げて本種の♀に交尾を迫っていた。ヤマ

トシジミの誤求愛は2分ほど続き、ソテツの葉上へと飛び逃げた本種をさらに追いかけていたが、約3分後、両者が離れ飛んで誤求愛は実ることなく終わった(島崎, 2026).

5) 西風が強く吹き始めた11月10日、発生地から約200m西方の自宅前でヒメツルソバで吸蜜する2♂を観察した(図8). 本種が発生したソテツ周りに吸蜜源となる花はなく、成虫は朝露などでしのいでいると考えられたが、活動エネルギー源となる花蜜を求めて強い西風に逆らって緑土公園を経由した住宅街へと飛来していた. 本種とほぼ同じ大きさのシルビアシジミが強い風に飛ばされて風下側へと遠く飛ばされる例を何度も観察しているが、本種が強い西風に抗して訪花した事実は、本種に相当の飛翔力があることの証であり、広範囲移動を可能とする習性の裏づけとなる. 小春日和となった11月11日には日光浴をする♀を観察中、雲が多くなるとソテツの葉陰に潜り込んで休息する習性がみられた.

高砂市以外における本種の観察例について、「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」に呼び掛けたところ、板野隆氏から「兵庫県の東南部では秋には毎年のように成虫が観察できるが、春から夏にかけてはまったくみられなく県東南部での越冬の可能性はないと考えられる」こと、大畑俊雄氏から「西宮市鳴尾浜・芦屋浜での2025年11月の観察例」、立岩幸雄氏から「加古川市内で過去に発生を見た2か所の大きなソテツで2025年発生は確認できていない」こと、北岡茂基氏から「10年ほど前には明石市立少年自然の家、明石市江井島酒館、明石市二見町等複数個所で発生を観察した」等の情報提供があった.

高砂市では本種が越冬できる可能性はないと考えられる(島崎・島崎, 2021)が、越冬の可能性に関わる興味深い記録として、2007年7月30日に吹田市(平井, 2009a)、2008年7月3日に京都市、次いで8月に宝塚市や池田市などでの発生が確認されている(平井, 2009b). 高砂市における9-12月の5回の偶発的発生が、毎年発生を見るという兵庫県南東部からの成虫の飛来による可能性も考えられるがその確証はなく、(1)本種成虫の広範囲移動の実態調査、(2)兵庫県南東部での越冬可能性の調査、(3)ソテツの綿毛および葉が固くなるまでに摂食して成育する幼虫時期の詳細な調査、(4)ソテツ周辺以外での蛹化習性の確認などが今後の課題である.

最後に、大畑俊雄氏による綿毛の中で成育する幼虫の観察情報、板野隆氏、立岩幸雄氏、北岡茂基氏らによる兵庫県内における本種の発生状況の情報提供に厚くお礼申し上げます.

引用文献

島崎正美・島崎能子, 2021. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録. きべりはむし, 44(1): 53-57

島崎正美・島崎能子, 2024. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録-2023. きべりはむし, 47(2): 46-47

島崎正美, 2026. ヤマトシジミがクロマダラソテツシジミに誤求愛. 月刊むし, (664): 53-54

平井規央, 2009a. 日本におけるクロマダラソテツシジミの発生と分布拡大. 植物防疫, 63(6): 25-28

平井規央, 2009b. 本州と四国におけるクロマダラソテツシジミの記録. やどりが, (220): 2-20

兵庫県におけるクロマダラソテツシジミの吸蜜植物

島崎正美¹⁾・島崎能子¹⁾

クロマダラソテツシジミ（以下、本種）に関しては、その偶発的発生と分布に関する報告例が多く、吸蜜植物については、森地（2009）による兵庫県における2007-2008年の記録中にカラミンサ（白色）、ユーフォルビア（白色）、千日紅（赤紅色）、クフェア（淡紫紅色）、ネベタ（紫色）、イノコズチ（緑色）、ランタナ（白色、紫色、橙色）、ユリオプスデージー（黄色）キバナコスモス（黄色）、マーガレット（黄色：筆者らは花芯部の色だと推定）の記録があり、本種が黄色い花を最も好むと考察されている。他に広畑（2019）がフジバカマでの吸蜜例を報告している。

筆者らは、これまで本種の発生調査時に吸蜜植物の記録もとってきた。島崎（2021）での既報分（イワダレソウ、ツゲ、エリゲロン、ヒメツルソバ、ポーチュラカ、マリーゴールド、ミセバヤ）を含む、筆者らによる記録24種に「加古川の里山・ギフチョウ・ネット」のメンバーによる観察記録4種を追加して、森地、広畑が記録していない吸蜜植物全28種を報告する。また、森地が注目した花の色別に、観察日、観察地（高砂市を省略）、観察者（姓）を記載する。

黄色系統（12種）

アメリカセンダングサ（図1）、オニタビラコ（図2）、ツゲ（図3）、カタバミ（図4）、キク（図5）、ジシバリ（図6）、スベリヒユ（図7）、セイタカアワダチソウ（図8）、ツワブキ（図9）、ポーチュラカ（図10）、マリーゴールド（図11）、ルドベキア（図12）

赤色系統（6種）

オキザリス（図13）、オシロイバナ（図14）、ノゲイトウ（図15）、ヒメツルソバ（図16）、ポーチュラカ（図17）、ミセバヤ（図18）

白色系統（6種）

イワダレソウ（図19）、エリゲロン（画像なし）：2020年10月2日、松波町、島崎、キキョウ（図20）、コスモス（図21）、ノジギク（図22）、ヒメジョオン（図23）

青色・紫色系統（4種）

シオン（図24）、キキョウ（図25）、コバルトセージ（図26）、コリウス（図27）

上記中、花芯部が黄色とみなせる赤系統：コスモス、ポーチュラカ、白系統：エリゲロン、ノジギク、ヒメジョオン、青系統：シオンの6種を黄色に惹かれての訪花だとすると、黄色：18種、赤色：4種、白色：3種、青色：3種となり、本種が黄色を最も好むとする森地の考察と符合する。この結果は、筆者らが報告しているシルビアシジミ（島崎，2024）でも、花芯部分が黄色い植物を含めた好みの色が黄色で勝っていることと同じで興味深い。

最後に、吸蜜植物の画像と情報を提供して下さった大畑俊雄氏、立岩幸雄氏にお礼申し上げる。

引用文献

- 島崎正美・島崎能子，2021. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録. きべりはむし, 44(1)：53-57
- 島崎正美・島崎能子，2024. 蝶と訪花植物：シルビアシジミの吸蜜植物—第8報—. きべりはむし, 47(2)：41-45
- 島崎正美・島崎能子，2024. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録-2023. きべりはむし, 47(2)：46-47
- 広畑政巳，2019. 姫路市白鳥台と書写にてクロマダラソテツシジミを撮影. きべりはむし, 42(2)：57
- 森地重博，2009. 兵庫県における2007・2008年のクロマダラソテツシジミの記録. きべりはむし, 32(1)：4-13

¹⁾Masami SHIMAZAKI・Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市



図 1. アメリカセンダングサで吸蜜.
(2023年10月29日, 高砂公園, 島崎)



図 2. オニタビラコで吸蜜.
(2018年10月2日, 神戸市, 大畑)



図 3. ツゲで吸蜜.
(2020年10月24日, 高砂南高校, 島崎)



図 4. カタバミで吸蜜.
(2016年10月24日, 田辺市天神崎, 島崎)



図 5. キクで吸蜜.
(2019年11月8日, 神戸市相楽園, 島崎)



図 6. ジシバリで吸蜜.
(2023年9月25日, 高砂高校, 島崎)



図 7. スベリヒユで吸蜜.
(2020年9月28日, 松波町, 島崎)



図 8. セイタカアワダチソウで吸蜜.
(2023年11月22日, 高砂公園, 島崎)



図 9. ツワブキで吸蜜.
(2019年11月8日, 神戸市相楽園, 島崎)



図 10. ポーチュラカで吸蜜.
(2020年10月3日, 高砂公園, 島崎)



図 11. マリーゴールドで吸蜜.
(2023年10月7日, 高砂公園, 島崎)



図 12. ルドベキアで吸蜜.
(2020年11月1日, 松波町, 島崎)



図 13. オキザリスで吸蜜.
(2023年10月17日, 松波町, 島崎)



図 14. オシロイバナで吸蜜.
(2023年10月8日, 高砂公園, 島崎)



図 15. ノゲイトウで吸蜜.
(2025年10月15日, 三田市, 大畑)



図 16. ヒメツルソバで吸蜜.
(2025年10月10日, 松波町, 島崎)



図 17. ポーチュラカで吸蜜.
(2020年10月11日, 高砂公園, 島崎)



図 18. ミセバヤで吸蜜.
(2020年9月4日, 松波町, 島崎)



図 19. イワダレソウで吸蜜.
(2020年10月2日, 松波町, 島崎)



図 20. キキョウで吸蜜.
(2008年9月13日, 神戸市相楽園, 立岩)



図 21. コスモスで吸蜜.
(2023年10月21日, 高砂公園, 島崎)



図 22. ノジギクで吸蜜.
(2023年11月22日, 高砂公園, 島崎)



図 23. ヒメジョオンで吸蜜.
(2020年10月10日, 松波町, 島崎)



図 24. シオンで吸蜜.
(2023年10月8日, 高砂公園, 島崎)



図 25. キキョウで吸蜜.
(2008年9月13日, 神戸市相楽園, 立岩)

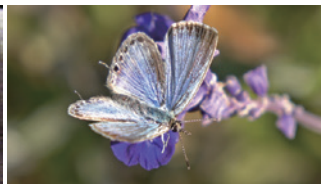


図 26. コバルトセージで吸蜜.
(2023年11月22日, 高砂公園, 島崎)



図 27. コリウスで吸蜜.
(2023年11月4日, 高砂南高校, 島崎)

兵庫県高砂市市街地におけるムラサキシジミの不連続な確認記録

島崎正美¹⁾・島崎能子¹⁾

兵庫県におけるムラサキシジミ *Arhopala japonica* (以下, 本種) は, アラカシなど常緑カシ類がある山地の山麓部や林縁部でごく普通に見られる蝶で, 市街地で観察できる機会はきわめて少なく, そのような個体はどこか遠くから飛来した可能性が考えられるが, 筆者らが知る限り長距離移動をする習性があるという報告はないと思われる. 高砂市ではアラカシなどが多い阿弥陀町の山地・山麓部や曾根町の日笠山 (標高 62m) など安定した生息地が知られているが, 市街地における正確な実態がわからない不連続な成虫の確認記録について報告する.

筆者らが高砂市内で蝶観察を始めたのは 1980 年だが, 2009 年 3 月 19 日に初めて松波町のウバメガシの垣根周りで本種の越冬個体 1♂ 1♀ を観察した (図 1). このウバメガシの垣根近くの自動車道路沿いにはアラカシが並木として植栽されており, そのひこ生えに新葉が多く出るのを見ているが, 本種の幼虫や成虫を観察したことはない. 2009 年 3 月の観察個体がウバメガシで発生した可能性を考えたが, 越冬前となる 2008 年の秋に本種の成虫を見ておらず, 発生経緯がわからないまま時が過ぎた.

4 年後の 2013 年 10 月 27 日に, 高砂市西畑二丁目の高砂公園でウバメガシの垣根周りを飛ぶ本種を観察した. 本種の観察は 2009 年 3 月に次ぐ二度目である. この場所は, 1980 年から毎週末に利用しているテニスコートのすぐそばにあり, 発生源として考えられるのはウバメガシだけであった. この年は 12 月 3 日まで成虫の活動を見たが 2014 年にかけての越冬個体は観察できていない.

次の観察は 2016 年 7 月 31 日の新鮮度が低い 1♀ で, 高砂公園のテニスコートそばのウバメガシ垣根の葉上での開翅個体 (図 2) であった. その後, しばらく確認できなかったが, 3 か月以上経った 11 月 12 日に高砂公園から約 2km 離れた荒井町小松原の県道 79 号沿い土手斜面で, セイタカアワダチソウで吸蜜する本種を観察した. 11 月 17 日には松波町 (高砂公園から約 900m)

のアカメモチ垣根の葉上にとまる新鮮な 1♀ を観察した. 2 年の期間を経た 2018 年 10 月 7 日には高砂公園の花壇周りに♀ が飛来し, ナデシコの花で吸蜜する場面 (図 3) が見られ, 10 月 21 日には荒井町小松原の県道 78 号沿い土手斜面のセイタカアワダチソウで吸蜜する本種をみた.

先述した説明の難しい不連続確認について, 2018 年 11 月より高砂公園のウバメガシ垣根周辺で観察できた記録を時系列に示す (表 1).

表 1. 2018 年から 2024 年にかけて高砂公園で確認されたムラサキシジミの記録

年	月日	個体数	備考
2018年	11月3-4日	1♀	
	11月17日	2♀	
	11月18日	1♂	
	11月24日	1♀ 1ex.	
	12月1日	2♂ (図4) 1♀ (越冬準備, 図5)	
	12月15日	2♀ (越冬準備)	
	12月21日	2♀ (日光浴)	
	12月23日	2♀ (越冬休眠) 2exs.	
	12月24日	2♀ 1ex. (越冬休眠)	
	2019年	1月13日	2♀ (日光浴)
1月14日		1♀ (日光浴) 1♀ (休眠)	
11月9日		1♂ (日光浴)	
11月10日		1♀ (日光浴)	
11月16日		1ex.	
2020年	1月19日	1♀ (越冬休眠)	
	3月13日	1♂ (越冬個体, 日光浴)	ウバメガシに新芽が出ているが産卵は未確認
2023年	11月4日	1♂ (セイタカアワダチソウで吸蜜)	
	11月22日	2♂ 3♀ (日光浴)	
	11月26日	1♂ (日光浴)	
	11月29日	1♂ (葉上に口吻をのぼす, 図6) 1♀	
	11月30日	1♂ (日光浴, 菊の花に口吻をのぼす) 1♀ (枯葉上で休眠)	
	12月1日	1♂ 1♀ (枯葉上で休眠)	
	12月3日	2♂	日光浴をしていた♂が休眠中の♀に接近
	12月4日	2♂ (日光浴)	
	12月6日	2♂ 1♀ (日光浴)	
	12月7日	3♂ (日光浴後, 枯葉上へ)	枯葉に移った後, 気温が 13℃を下回る
2024年	12月10日	1♂ 1♀ (日光浴)	
	12月14日	2♂ 1♀ が 1 か所 で 休 眠 (図 7)	
2024年	1月2-4日	2♂ (休眠)	

¹⁾Masami SHIMAZAKI・Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市

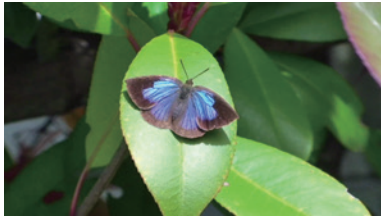


図 1. ムラサキシジミ♀.
(2009/3/19 高砂市松波町)



図 2. 日光浴中の♀.
(2016/7/31 高砂市高砂公園)



図 3. ナデシコで吸蜜.
(2018/10/7 高砂市高砂公園)



図 4. ムラサキシジミ♀.
(2018/12/1 高砂市高砂公園)



図 5. 越冬準備中の♀.
(2018/12/1 高砂市高砂公園)



図 6. 葉上で口吻をのばす♀.
(2023/11/29 高砂市高砂公園)



図 7. 越冬休眠中の 3 個体.
(2023/12/14 高砂市高砂公園)

2018 年から 2024 年の観察中にみられた本種の習性として特徴的な行動を列挙する。

- 1) 訪花性が低い本種の食餌行動に関する記録が少ないが、2023 年 11 月 29 日に♂がウバメガシの葉上に口吻を伸ばしていた事例では、水分が葉から染み出る成分の何かなどを吸汁していた可能性が考えられる
- 2) 越冬場所として翅裏の淡褐色がカムフラージュとなるウバメガシ垣根の枯葉部分や褐色の枝の陰で一部が枯れた葉上(図 6) などを利用している
- 3) すでに枯葉部分で越冬態勢を決めた個体を、他の個体が認識して寄り添うように休眠し始める行動がみられた(2023 年 12 月 3 日)
- 4) 外気温が 15℃未満では休眠状態を続け、太陽光が届いて気温が上がると、休眠中の個体でも葉上に移動して日光浴をすることがある
- 5) 日中の温かい時間中にウバメガシの葉上で開翅して日光浴をしていた個体が、急に越冬場所を確保していた枯葉上に移動した。その後、外気温が 13℃以下まで下がり、気温の低下を予測した挙動だと考えられた

本種のカムフラージュ効果に関しては、近縁のムラサキツバメが集団で越冬する場合、ほとんどが常緑樹の葉陰で裏面の褐色を利用していないのに比べると、自然の理にかなった勝れた習性だと考えられる。ただし、高知市での未報告観察記録として本種がミカン類やビワの葉など緑色の葉陰で越冬していた例もあることを付記しておく。

本種に関しては、現地で毎日連続して観察できたわけではないが、5-9 月でも毎週末にはウバメガシの垣根一帯を見て回っているが、以下 2 点の事象が 2018 年から 2024 年の間に三度も観察できたことに間違いはない。また、2021-2022 年の観察できなかつた期間を経て、2023 年の秋に再び発生したというのも事実である。

- ①越冬個体は 1-3 月までは確認できているが、その後確認されていない
- ②越冬後の♀が産卵をしたはずの次世代の発生が見られていないのに、晩秋の 10-12 月には新たな成虫が確認されている

高砂公園のウバメガシ垣根は 8-9 月に定期的な刈込が実施されるが、幼虫の時期とずれるため、その影響で本種が一時的に全滅するという状況はないと考えられる。5-9 月に成虫を観察できたのは 2016 年 7 月 31 日だけである。ツマグロキチョウは秋型が広範囲に移動することが知られている(島崎, 2025)が、本種に関しても、晩秋になって高砂公園で観察できるのは、他の生息地からの長距離移動個体だと考えられる。

クロマダラソテツシジミが相当の長距離を移動してソテツの新芽を察知する事例は多く観察記録されている(島崎, 2024)が、本種においてもウバメガシやカシ類の植物成分を察知して移動する習性があるのかどうか、興味ある検討課題として報告した。

引用文献

- 島崎正美・島崎能子, 2024. 兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録-2023. きべりはむし, 47(2): 46-47
- 島崎正美・島崎能子, 2025. 兵庫県高砂市へのツマグロキチョウの飛来記録と吸蜜植物. きべりはむし, 48 (1): 123-125

たんぽう



兵庫県におけるクロシオヒサゴカスミカメの記録

里見太輔

クロシオヒサゴカスミカメ *Hyseloecus tamaderai* Yasunaga & Duwal (チビカスミカメ亜科 Phylinae: ヒョウタンカスミカメ族 Pilophorini) は, 神奈川県小田原市産の個体を基に記載され, 三重県, 和歌山県, 宮崎県, 屋久島, 種子島, 沖縄島, 西表島産の標本も同種のパラタイプに指定されている (Yasunaga & Duwal, 2025). 和名の通り黒潮に沿うような分布を示す.

本種は, これまでオオバヤドリギとニンドウバノヤドリギに寄生することが知られていたが, 筆者は最近, 兵庫県で本種の成虫 3 個体をマツグミから採集した. そこで, クロシオヒサゴカスミカメを本県からの初めて記録するとともに, 新たな寄主植物を報告する.

なお, 標本は全て兵庫県立人と自然の博物館にて保管される.

【採集記録】

2♂♂ 1♀, 兵庫県芦屋市奥池, 23. IX. 2025, 筆者採集 (図 1a)

上記の個体はアカマツに寄生しているマツグミ (オオバヤドリギ科マツグミ属) の葉をスウィープして得られた (図 1b). 本種の寄主植物としてオオバヤドリギとニンドウバノヤドリギ (オオバヤドリギ科マツグミ属) が確認されていたが (Yasunaga & Duwal, 2025), 複数個体得られていることから, マツグミも本種の寄主植物の一つとなっていることはほぼ疑いない.

末筆ではあるが, 本種を同定いただき, 文献情報の提供及び本文を校閲いただいた安永智秀氏, 標本を撮影いただいた松原 慧氏に心より御礼申し上げます.

○引用文献

Yasunaga, T., & Duwal, R.K., 2025. Three new species of the plant bug tribe Pilophorini from Japan (Hemiptera: Heteroptera: Miridae: Phylinae). *Zootaxa*, 5632(3): 531–546.

(Daisuke SATOMI 兵庫県立人と自然の博物館)



図 1. クロシオヒサゴカスミカメと生態環境. a, クロシオヒサゴカスミカメ♂ (芦屋市産, スケールは 1mm); b, 本種が得られたマツグミ.

兵庫県におけるシンリョクナガタマムシの記録

里見太輔

シンリョクナガタマムシ *Agrilus viridis* (Linnaeus, 1758) は, 国内では, 北海道・本州・四国に分布し, ヤナギ属, シラカバ属, ニレ属, コナラ属などの幅広い樹種から採集されている (大桃・福富, 2013; 福富ら, 2022).

筆者はこれまでに記録のないと思われる兵庫県で本種を採集しているため報告する. なお, 標本は兵庫県立人と自然の博物館にて保管される.

【採集記録】

5♀♀, 兵庫県養父市鶴縄大段ヶ平, 13. VII. 2025, 筆者採集・兵庫県立人と自然の博物館にて保管 (図 1a)

本種の同定は, タマムシハンドブック (福富ら, 2022) を参考に, 内側隆線が短く, 前胸腹板突起が舌状であることからシンリョクナガタマムシとした (図 1b-c). 得られた個体は全て赤みがかった茶褐色であった.

採集時の状況として, 標高 1100m 付近のイタヤカエデ (ムクロジ科カエデ属) のスウィープにより本種を採集した (図 1d).

末筆ではあるが, 本種の同定についてアドバイスをいただいた板倉充洋氏, 山田航氏, 標本を撮影いただいた松原慧氏に心より御礼申し上げます.

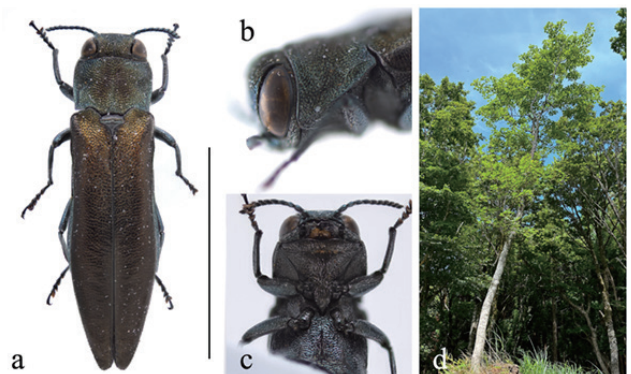


図 1. シンリョクナガタマムシと生態環境. a, シンリョクナガタマムシ♀ (養父市産, スケールは 5mm); b, 内側隆線; c, 前胸腹板突起; d, 本種が得られたイタヤカエデ.

○引用文献

大桃定洋・福富宏和, 2013. 日本タマムシ図鑑. 120pp. むし社, 東京.
福富宏和・山田航・瑤寺裕・尾園暁, 2022. 森の宝石。タマムシハンドブック. 112pp. 文一総合出版, 東京.

(Daisuke SATOMI 兵庫県立人と自然の博物館)

兵庫県南東部で 2025 年にチュウゴクアミガサハゴロモを撮影

宇野宏樹

チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* は, 中国を原産とする外来種のアミガサハゴロモの仲間である(外村・大原, 2024). 兵庫県においては, 上郡町で 2022 年に発見されている(大貝, 2023). 筆者は 2025 年に本種を兵庫県宝塚市および西宮市で撮影したので, 近年の分布状況の例として報告しておきたい.

1ex. (写真 1), 兵庫県宝塚市栄町阪急宝塚駅構内. 5. X. 2025. 筆者撮影.

1ex. (写真 2), 兵庫県西宮市甲山町付近. 6. IX. 2025. 筆者撮影.

宝塚市産の個体は, 阪急宝塚駅構内に落ちていた個体を撮影したものであり, 西宮市産の個体は, 植物体に静止していた個体である. 本種は外来種とされているので, 今後の動向に注意が必要だと思われる.

○引用文献

大貝秀雄, 2023. 上郡町で近年確認された新参外来昆虫. きべりはむし, 46(2): 32-33.

外村俊輔・大原賢二, 2024. チュウゴクアミガサハゴロモ *Ricania shantungensis* (Chou & Lu, 1977) の徳島県からの初記録. 徳島県立博物館研究報告, 34: 77-80.

(Hiroki UNO 大阪府池田市)



写真 1. 宝塚市で撮影された個体.



写真 2. 西宮市で撮影された個体.

神戸市須磨区でキムネクロナガハムシの死骸を発見

楠本悠貴

2025 年 12 月 14 日に神戸市須磨区で甲虫の死骸を 1 個体見つけた. 家にもって帰ってハムシハンドブック(尾園, 2020) で調べたところ, キムネクロナガハムシに似ていると思った. この昆虫は南太平洋諸島原産で, 国内では琉球に分布していると言われていたので, 兵庫県にいるのはおかしいと思った. しかし, 死骸をひろった場所は, この昆虫の食草であるヤシの木の下だったので, そのヤシの木に付いていたのではないかと思った.

2026 年 1 月 11 日にもう一度同じ場所へ調査に行った. 今回の調査の結果, 頭部, 胸部, 腹部がそろった死骸が 7 個, 頭部が取れた死骸が 3 個, 腹部のみの死骸が 1 個, 上翅のみが 7 枚, 幼虫と思われる死骸を 1 個見つけた. ヤシの葉には食痕が多く付いていた. 単眼鏡でヤシの木を観察したが, 生きている個体は見つからなかった. しかし, 調査をしたヤシの葉には食痕が多く付いていたので, キムネクロナガハムシがヤシを食べたのではないかと思う.



図 1. 神戸市須磨区で採集されたキムネクロナガハムシ.



図 2. 1月11日の調査結果.

2月28日と3月23日にまた同じ場所を見に行った。死骸はあったが、生きていた個体は見つからなかった。これからも生きていた個体がいなか、キムネクロナガハムシの死骸が増えていないかを調査をしていきたい。

末筆ながら同定いただいた森 正人氏, ご協力いただいた山本紘子氏(箕面公園昆虫館)に厚くお礼申し上げます。

○引用文献

尾園 暁, 2020. ハムシハンドブック. 文一総合出版, 104pp.

(Haruki KUSUMOTO 兵庫県明石市)

姫路市でコガタノゲンゴロウを採集

楠本悠貴

2025年10月5日に姫路市でコガタノゲンゴロウを採集した。公園の池で水生昆虫を探していたらコガタノゲンゴロウが泳いでいた。網で捕まえて、まだいなか確かめたが1個体しかいなかった。

森 正人氏が書いた兵庫県のゲンゴロウ類目録 (2) (森, 2025) には姫路市の記録がないので報告する。

末筆ながら文章を見ていただいた森正人氏に厚くお礼申し上げます。

○引用文献

森 正人, 2025. 兵庫県のゲンゴロウ類目録 (2) . きべりはむし, 48 (2) : 1-14.

(Haruki KUSUMOTO 兵庫県明石市)



図. 姫路市で採集されたコガタノゲンゴロウ.

美方郡新温泉町でミズスマシを確認

泉山真寛

ミズスマシ *Gyrinus japonicus* は、全国的に個体数が急激に減少しており、環境省レッドリストでは絶滅危惧Ⅱ類 (VU) に選定されている。また、兵庫県版レッドリスト 2022 (昆虫類) ではBランクに位置づけられている。Bランクは、環境省レッドリストにおける絶滅危惧Ⅱ類に相当し、県内において絶滅の危険が増大している種、または生息環境・自生地等の保全が強く求められる種とされる。

本種は過去に新温泉町で記録があるものの、その後の新たな記録や生息情報は乏しく、生息地の減少も懸念されている。したがって、県内における本種の生息状況を把握し、生息地の確認と保全を進めることは重要である。

2026年5月上旬の調査において、少なくとも7個体のミズスマシを確認し (図1) 採集した後、リリースした。希少種であるため詳細な地点情報は控えるが、今回確認した水域は、水田地帯に位置し、山間部からの流水が流入する透明度の高いため池であった (図2)。水深は70cm以上あり、水域全体が澄み渡っていた。

○引用文献

兵庫県版レッドリスト 2022 (昆虫類). https://www.kankyo.pref.hyogo.lg.jp/jp/environment/leg_240/leg_289/2022 (最終閲覧: 2026年5月).

(Masahiro IZUMIYAMA 兵庫県養父市)



図1. 新温泉町産ミズスマシ.



図2. 確認されたため池.

兵庫県高砂市でミヤマカラスアゲハを初記録

島崎正美・島崎能子

筆者らは2026年4月24日、高砂市曾根町の日笠山(62m)の中腹部にあるヤマツツジで、アゲハチョウ、キアゲハ、クロアゲハに混じって吸蜜するミヤマカラスアゲハ(以下、本種)の♀を観察し、そのビデオ撮影記録をとった(図1-2)。「兵庫県の蝶」(広畑・近藤, 2007)によれば、近隣の姫路市や加古川市には本種の記録があるが高砂市は未記録となっているため、高砂市での初記録として報告する。

本種は、ヤマツツジの花から離れて飛び去って姿が見えなくなってもしばらくすると舞い戻るなど、ときにはアゲハチョウに絡まれたりしながら吸蜜を繰り返していて、その様子を13時45分から14時30分まで継続観察した。観察できたのはこの個体だけで新たな個体は飛来しなかった。

本種については2016年4月26日に加古川市平荘町黒岩山(132m)の山頂部で確認しているが、加古川市でも本種に出会える機会は多くない。食樹として考えられるのはカラスザンショウだが、高砂市においては筆者らの知る限り、阿弥陀町の市の池公園内で確認できた成木1本のみである。今回観察した本種がこのカラスザンショウで発生したかどうかは不明だが、今後、市の池公園での本種の発生に注意するとともに食樹の分布調査を進める。

本報告に際し、兵庫県の蝶に関する詳細なデータベースをもとに初記録だにご教示くださった近藤伸一氏と、2007年以降を含む高砂市における情報を提供してくださった東輝弥氏に感謝する。

○引用文献

広畑政巳・近藤伸一, 2007. 兵庫県の蝶. 330pp. 岩峰社, 東京

(Masami SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)

(Yoshiko SHIMAZAKI 兵庫県高砂市)



図1.



図2.

[新刊紹介]

『コオロギたちのすだく夜に』

竹田真木生 著 京都大学学術出版会 2025

前藤 薫

コオロギに惚れ込んだ生物学者が、世界各地でコオロギとそれらをめぐる人々に会い、コオロギが問いかける謎に魅惑されて時に泥濘に足を取られてもがきながら格闘してきた冒険譚である。本書には筆者が生物進化と人類文化史の時空を思うままに駆け巡ってものにしたコオロギのすべてが詰め込まれている。満たされた濃厚なスープは一気に飲み干すよりも、面白そうなところから、少しずつ味わうのが良いだろう。

早速だが、第1章「コオロギとはどういう昆虫だろう」は読み飛ばしてよい（生命誕生から昆虫にいたる進化史が的確にまとめられているものの、やや難しい）。ただし、本書で扱われる「コオロギ」には、スズムシ、マツムシ、マダラズなど、中小型の鳴く虫が広く含まれることはここで確認しておきたい。また、38～40頁の「エンマコオロギの生活史と地理的変異」だけは、本書の中心的なテーマの導入となるので、ぜひ読んでおいて欲しい。

第2章「コオロギの生活史と休眠」では、暖かくて湿潤な地域に起源したであろうコオロギの仲間が、寒冷地や乾燥地に進出するなかで身につけた適応戦略が紹介されている。温帯のコオロギが厳しい冬をやり過ごすには、「耐凍性」や「休眠」といった手立てを季節変化に同調させる「光周性」が重要になる。一方で、アフリカの高原にすむギンイロコオロギは、異常に高い発育零点と光周性を組み合わせて致命的な乾燥期を凌いでいる。この章では、コオロギが「良い声で鳴くしくみ」や鳴き声を聞くための「耳」についても触れられている。

コオロギの休眠や光周性は種ごとに適応進化した精緻なシステムであり、異種間で混ざり合うと機能しなくなる。例えば、ツツレサセコオロギには幼虫越冬する種と卵越冬する種がいるが、交雑すると越冬のための仕組みは崩壊してしまう（これは死を意味する）。第3章「コオロギの種はどうしてできるのか」では、生活史制御の不連続性がコオロギの種の多様性を成り立たせてきた原理（近縁種間の生活史形質の形質置換による生殖隔離の強化）が考察されている。著者はさらに踏み込んで、生活史の不連続性が、地理的隔離に依らない同所的種分化を引き起こす可能性についても議論している。

第4章「体の大きなコオロギと小さなコオロギ」では、生物の体サイズという普遍的な命題に、コオロギ学者が得意とする生活史の適応進化という視点からアプローチしている。ここではアロメトリー（相対成長）や翅長多型といった古典的な現象を、染色体インプリンティングやホルモン制御などの分子的な機構によって理解しよう



とする最先端の取り組みが紹介されている。

コオロギに限らず昆虫の生活史制御は光周性、すなわち日長を測るシステムに依っているのだが、実はこれがまだ十分には解明されていない。第5章「コオロギの一日」では、コオロギの活動と眠りのリズムを概説したのちに、昆虫の概日リズムや日長を読み取る機構について著者自身をふくめた研究者達の悪戦苦闘が綴られる。人間はシンプルな説明を求めてしまう生き物らしいが、そこには落とし穴があって、新しい視点や手法を開拓した者よりも、それを用いて分かりやすい結果を示した者が評価されやすいことなど、なるほどと思う。

ここまで述べられたようにコオロギの生活史はとても多彩なのに、その食性は拍子抜けするほどにシンプルな雑食である。従って第6章「コオロギが食べる、コオロギを食べる」では、コオロギを食べる天敵と食用コオロギの話題が中心になる。コオロギは雑食性のため飼育が容易で、栄養価も高いので、昆虫食の未来をけん引するトップランナーである。ケラが漢方に使われているように、昆虫には薬効成分が含まれるという指摘も面白い。

本書には6つの章のほか、生物学的解説のための6つの囲み記事とコオロギを題材にした世界中の文学、音楽、民俗学を紹介するコラムが配置されているが、著者の博識と感性にあふれた9つのコラムがとくに興味深い。西洋人が虫の音に関心がないというのは誤りであり、ドクトル・ジバゴが西部戦線から敗走する場面には、汽車の轟音に負けないほどにすだくコオロギの鳴き声が添えられて主人公の心情を表している。コオロギ属の学名 *Gryllus* は、ギリシャ語で「グリグリと鳴くもの」なのだそうだ。

肥えて太ったコオロギたちが騒がしくすだいてその在りかを教えてくれるときに、食指を動かさずに落ちていて聴いていられるのは幸せなことに違いない。我々が虫の音から情緒を感じるのはそのためだろうか。鳴く虫と人々の太古からのかかわり合いに思いを馳せた。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)

[新刊紹介]

『カエルの学校—両生類大好きなあなたへ—』

大河内 勇 文・写真 東京図書出版 2025

前藤 薫

「カエルの学校」といえばカエルたちの小学校での騒動を描いた森荘巳池の童話が知られるが、本書はカエルやサンショウウオに魅せられた著者が、それらを研究する仲間から学んだあれこれを綴ったエッセイである。1970年代から現在まで時代を前後しながら、50種を超える両生類が登場して、それらに関わる人々について濃密な記憶が語られる。だが、それは古きよき時代の感傷譚ではない。カエル好きの少年が両生類にのめり込み、大学院の途中で不本意ながら別の道（森林害虫管理学）に進みながらも、カエル仲間との交流を深めてゆく物語である。半世紀にわたる爬虫両生類学の歩みはもちろん、この間に大きく変化した自然環境と人間の関係性、そして生物多様性科学や保全生物学が社会に受容されてゆく様にも著者の眼差しは注がれる。

エッセイとともに圧巻なのは130点にも及ぶ両生類とその生息環境のカラー生態写真である。和子夫人による1枚を別にすれば、全て著者自身が日本国内と台湾の生息地（ごく一部は飼育下）で撮影したものだ。その一つひとつがどのように撮影されたものか、その背景や経緯、撮影にいたる著者の熱意を知ること、両生類への理解が深まる。著者は日本自然科学写真協会の会員であり、アマチュアながらその技量は確かである。

著者は本書を「両生類好きの大人の読む本」としてしている。たしかに子供向けの図鑑や読み物ではない。しかし、カエルに限らず生きもの好きなら誰もが関心をもつに違いない逸話や話題が豊かに盛り込まれている。全てに原典が引用されているのも嬉しい。以下、多数の興味深いトピックの中からほんのいくつかを紹介しよう。

樹上で一生を終えるカエル

モリアオガエルやシュレーゲルアオガエルは樹上で生活するカエルだが、幼生は沼や池で成長する。ところが、同じ樹上性のアオガエル類でも、八重山諸島と台湾の森林に生息するアイフィンガーガエルは、樹上のたまり水（樹洞や着生植物の葉の付け根、竹の切り株などに溜まった水）の近くに産卵し、幼生はたまり水に落ちて成長するので、地上に降りることがない！たまり水に十分な餌があるものと心配になるが、驚くべきことに母ガエルが無精卵をたまり水に産み落とし、幼生はそれを食べて育つ。しかも、母ガエルは産卵場所をしっかりと覚えていて、他人の子に無精卵を食べさせることはないというから驚きである。

日本にもネオテニー（幼形成熟）サンショウウオ

日本産のサンショウウオには、アホロートル（ウーパールーパーとも呼ばれる）のようなネオテニー（幼形成熟）現象は見られないと思っていた。だがそれは誤りで、1920年代に北海道のクッタラ湖でエゾサンショウウオのネオテニー個体群が発見されている。ところが残念なことに、クッタラ湖には養殖用にヒメマスが移入されて、おそらくはその捕食圧によってネオテニー個体群は絶滅してしまった。だが、つい最近2020年代になって、北海道の別の湖で同種のネオテニー個体が再発見されたという。もちろん採集して飼育するのは厳禁である。

龍のモデルはワニ？

東洋の龍のモデルは恐竜の化石か現生の大蛇だろうと思っていた。著者の旧友の青木良輔氏はマチカネワニ（大阪で発見された数十万年前の化石種）こそ、龍のモデルだという説を唱えたが、ずっと無視されていた。ところが最近になって中国の青銅器時代の遺跡からマチカネワニに近縁なワニの骨が出土して、ワニ説がにわかに注目されているという。龍の大きく上下に開く口は、たしかにワニの大あごにそっくりである。

カエルの世界の国盗り物語

トノサマガエルにはダルマガエルという足の短い近縁種がいる。ダルマガエルは亜種や地域集団が複雑に分化していて難しそうだと思っていたが、最近の研究によってそれらの進化史が解明されつつあるという。ダルマガエルは日本固有種だが、トノサマガエルは大陸で進化し、朝鮮半島と日本列島が陸続きになった時代に日本にやって来たらしい。その後トノサマガエルは日本列島を北上する途上で各地のダルマガエルと激しく競合し、ダルマガエルに遺伝的な分化や特異な生殖行動の進化をもたらしたようだ。ヒキガエルやツチガエル、サンショウウオ類の多様性についても新発見が相次いでいる。

東洋のガラパゴスを外来種の脅威から守る

小笠原諸島は過去に大陸と地続きになったことがなく、そこにはガラパゴス諸島と同様、固有種が多くを占める貴重な生態系が発達している。しかし、その脆弱なシステムは人為的に持ち込まれた多くの外来生物の脅威にさらされている。著者は小笠原諸島における侵略的外来種問題の研究を一貫して主導し、世界自然遺産登録にも大きく貢献した。だが皮肉なことに、そこではオオヒキガエルやウシガエル、グリーンアノールといった外来の爬虫両生類とも激しく戦うことになる。

(Kaoru MAETO 兵庫県宝塚市)

[新刊紹介]

『兵庫のトンボ —分布記録と生態観察—』

東 輝弥・青木典司 著 680pp. 自刊 2025

池田 大

兵庫県の特産品情報決定版が出版された。厚さ3cm、重さ2.3kg、680ページに及ぶ大作であり、かつてNTTが発行した電話帳『タウンページ』を思い出させるボリュームである。もちろん、ただ分厚いだけではない。筆者の一人である、東氏の米寿記念に制作されたとのことだが、県内で長年調査してきた筆者らの生きた証というほかない、非常に膨大な情報が記録されており重みを感じる。本書では、県内で確認されているトンボ全101種を主に『分布記録編』と『生態観察編』の2部構成で紹介している。

『分布記録編』には、1958年～2024年まで67年間の膨大な観察記録が各種別でまとめられており、本書のページ数全体の約80%に相当する。日付と場所といった基本情報のほかに、確認したステージや個体数などが詳細に記されており、当時の生息状況をイメージしやすい。また一般的な愛好家の場合、興味のある対象に観察記録が偏りがちで、定量的な観察記録が残ることは少ない。しかし本書では、特に観察の多い種において、1種で30ページを超えるデータがあり、確認した年代も偏っていない。このことから、いわゆる普通種であっても長年しっかり観察記録を残してきた様子を読み取ることができる。

『生態観察編』もまた、これだけで1冊の図鑑ができるボリュームである。県内の定着種が1種1ページで情報がまとめられており、飛来種・偶産種も合わせるとページ数は100ページ近くとなる。各ページには、青木氏による生態写真及び両氏の膨大な観察データより分析された、県内での生態及び生息状況が詳しくまとめられている。さらに、解説は一般的な図鑑の記述ではなく、筆者らが県内で実際に観察した一次情報で構成されており、こだわりを感じるオリジナル性の高い内容となっている。

以上のことから、冒頭でも述べた通り、本書はこれまで解明されている兵庫県の特産品の情報がまとめられた決定版であり、県内のトンボを知るには必携であると考えられる。また一次情報満載の本書は、県内外に関わらずあらゆる場面での利用が期待される。購入希望の方は、自費出版のため東氏まで直接ご連絡いただきたいとのことである。

電子メール：t.akane.1610 ☆ gmail.com

(☆は@に置き換える)

(Hiroshi IKEDA 榎原市昆虫館)



きべりはむし 投稿案内

1. 内容

「きべりはむし」は、老若男女を問わず、昆虫に関心のある読者を対象とし、兵庫県ならびに地域の昆虫相、昆虫の採集・観察・飼育の記録や方法、昆虫学の解説、昆虫を題材とした教育や地域づくりに関する記録や方法などの、未発表の報文を掲載します。

2. 編集・発行

「きべりはむし」は、兵庫昆虫同好会の機関誌ではなく、独立した雑誌とし、「きべりはむし編集委員会」が編集し、「NPO 法人こどもとむしの会」が発行します。巻号は、兵庫昆虫同好会発行の「きべりはむし」の継続とします。

3. 著作権

掲載報文の著作権は、「NPO 法人こどもとむしの会」に帰属するものとします。

4. 体裁・媒体

本誌の判型は A4 判とし、横書き 2 段組とします。本誌は、Adobe PDF 形式による電子ファイルとして出版し、データは「NPO 法人こどもとむしの会」の web サイト (<http://www.konchukan.net/kiberihamushi>) からダウンロードできるものとします。また、紙媒体による印刷物を別途製作し、希望者に時価で頒布します。

5. 投稿者

「きべりはむし」には、NPO 法人こどもとむしの会正会員および賛助会員、学生（小学生、中学生、高校生、大学生および大学院生）ならびにきべりはむし会員のいずれかが著者に含まれる原稿を投稿することが出来ます。なお、きべりはむし会員が 1 年間に投稿できるのは、報文 2 報・短報 2 報までとなります。

6. 原稿提出時のお願い

原稿は、原則としてデジタルデータでお願いします。以下を参考に、文字部分と、図や表の部分は別々のファイルとして提出ください。従来通りの紙原稿でも受付しますので、ふるって投稿ください。

1) 文字部分

図表以外の部分と図表のキャプションは、1つのファイルとして、リッチテキスト形式 (.rtf) もしくは MS ワード形式 (.docx) で保存してください。ゴシック体、イタリック体などの書体も指定ください。原稿は、一般に、表題、著者、要旨、本文、謝辞、文献で構成します。本文が数ページに及ぶ報文の場合は、本文の前に 400 字以内程度の要旨をつけることも可能です。文献、ホームページの引用は、一般的な学術雑誌の例にならってください。

2) 図表

それぞれの図表ごとに別々のファイルとして作成し、(jpeg), (psd), (pdf) などの形式で保存してください。また画像データにつきましては可能な限り、高解像度での保存をお願いします。図表の幅は、1 段または 2 段分となります。原則として、単純な拡大縮小以外には行わず、そのまま印刷に供しますので、図表中の文字サイズは、刷り上がりの大きさを考えて適切に設定してください。また、写真のトリミングは、適切にトリミングしたものを提出してください。著者以外が作成した地図や、人物が写っている写真を用いる場合は、事前に、著作権者や本人の承諾を得ておいてください。

3) 引用文献

文献を引用する場合、雑誌や単行本は「著者名 (年号)」または「(著者名, 年号)」, ウェブサイトは「サイト作成者名 (年号)」、「(サイト作成者名, 年号)」または「(ウェブサイト名)」と、本文の引用箇所に書き、文末に引用文献をまとめて記載してください。引用文献の記載方法は、以下の例を参考にしてください。

・雑誌を引用する場合

(例 1) 福岡誠行・黒崎史平・高橋晃, 2000. 兵庫県産維管束植物 2. 人と自然, 11: 85 - 104.

(例 2) 石原誠一, 1959a. トビイロスズメの生活史 (I). 新昆虫, 12 (2): 36 - 39.

(例 3) 石原誠一, 1959b. トビイロスズメの生活史 (II). 新昆虫, 12 (7&8): 37 - 39.

(例 4) Hardy, D. E., and M. Takahashi. 1960. Revision of the Japanese Bibionidae (Diptera, Namatocera). Pacific Insects, 2(4): 383-449.

・単行本を引用する場合

(例 5) 安永智秀・高井幹夫・中谷至伸, 2001. 日本原色カメムシ図鑑－陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans－第 2 巻 (安永智秀・高井幹夫・川澤哲夫 編). 全国農村教育協会, 東京. 350pp.

・ウェブサイトを引用する場合

(例 6) 神戸市, 2015. 神戸の希少な野生動植物－神戸版レッドデータ 2015－, (<http://www.city.kobe.lg.jp/life/recycle/biodiversity/rd/img/rdb2015.pdf>).

(例 7) Web 東奥 (東奥日報), 2020 年 8 月 25 日. 青森県初確認? 深浦町にアカギカメムシ, <https://www.toonippo.co.jp/articles/-/399599> (参照 2020 年 11 月 26 日).

7. 原稿送付先

きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net

8. 原稿の修正, 採否等

編集委員会は、内容や文言の修正を著者に求めることがあります。また趣旨に合わない原稿は掲載をお断りすることがあります。

9. 投稿者, 原稿内容に関する問い合わせ

個人情報保護の観点から、投稿者個人の連絡先は明記しておりません。お問い合わせ等につきましてはきべりはむし編集委員会メールアドレス kiberihamushi@konchukan.net までお願いいたします。

10. ISSN について

きべりはむしは第 32 巻第 2 号からオンラインジャーナルの PDF 版が正式版となりました。これに伴い、ISSN (国際標準逐次刊行物番号: International Standard Serial Number) を取得しました。ISSN とは、雑誌などの逐次刊行物の情報を識別するための国際的なコード番号です。

・参考 web サイト

ISSN 日本センター: <http://www.ndl.go.jp/jp/aboutus/issn.html>

きべりはむし 第49巻 第1号

2026年6月25日 発行

編集 きべりはむし編集委員会
発行 NPO 法人こどもとむしの会
事務局 NPO 法人こどもとむしの会
きべりはむし編集委員会 kiberihamushi@konchukan.net

きべりはむし web サイト：<http://www.konchukan.net/kiberihamushi/index.html>

きべりはむし 第49巻 第1号 目次

【報 文】

兵庫県で報告の少ないハマキガ科の蛾類について	高橋輝男・坪田 瑛	1-11
兵庫県南部で撮影した県内初記録および記録の少ない蛾類 (続報)	柴田 剛	12-15
兵庫県西播磨地域で確認した県内初記録及び記録の少ない蛾類について (2)	高橋弘樹	16-20
上郡町のハナノミ科 (Coleoptera: Mordellidae)	大貝秀雄	21-23
上郡町で近年確認された新参外来昆虫 (2)	大貝秀雄	24-25
兵庫県丹波篠山市で見られた昆虫類の記録 (その2)	宇野宏樹	26-28
宝塚市の緑地公園の昆虫についての続報 (その2)	宇野宏樹	29-30
神戸市摩耶山における2025年度のアサギマダラの移動調査の結果	宮武頼夫・一井弘行・徳増実事	31-34
Google フォームを用いたシタバニハゴロモの日本国内における分布調査	菅藤康平	35-37
兵庫県三木市内で確認したホシミスジ幼虫の食餌状態からの帰巢行動	立岩幸雄・今井勝彦	38-39
兵庫県高砂市におけるクロマダラソテツシジミの発生記録-2025	島崎正美・島崎能子	40-42
兵庫県におけるクロマダラソテツシジミの吸蜜植物	島崎正美・島崎能子	43-44
兵庫県高砂市市街地におけるムラサキシジミの不連続な確認記録	島崎正美・島崎能子	45-46

【短 報】

兵庫県におけるシンリョクナガタママシの記録	里見太輔	47
兵庫県におけるクロシオヒサゴカスミカメの記録	里見太輔	47-48
兵庫県南東部で2025年にチュウゴクアミガサハゴロモを撮影	宇野宏樹	48
神戸市須磨区でキムネクロナガハムシの死骸を発見	楠本悠貴	48-49
姫路市でコガタノゲンゴロウを採集	楠本悠貴	49
美方郡新温泉町でミズスマシを確認	泉山真寛	49
兵庫県高砂市でミヤマカラスアゲハを初記録	島崎正美・島崎能子	50

【書 評】

[新刊紹介] 『コオロギたちのすだく夜に』	前藤 薫	51
[新刊紹介] 『カエルの学校ー両生類大好きなあなたへー』	前藤 薫	52
[新刊紹介] 『兵庫のトンボー分布記録と生態観察ー』	池田 大	53

【訂 正】

30

投稿案内		54-55
------	--	-------